

令和7年度名古屋市立大学 国際学会発表等支援事業 成果報告書
【国際学会発表】

申請者氏名	ハットリユウスケ 服部 勇介
所属	医学研究科 博士課程 4年 (生体情報・機能制御学) ※ () 内には、専攻・分野・領域・系列等を記入

国際学会の名称	World Society of Reconstructive Microsurgery 2025
国際学会の主催者	Jaume Masia
開催地	〈国名〉 スペイン 〈都市名〉 バルセロナ
参加期間	2025年 4月 24日 ~2025年 4月 25日
研究発表演題	The Suspension Bridge Method: A Novel Suturing Technique for Enhancing Tensile Strength in Artificial Nerve Conduits 〈和訳〉人工神経において引張強度を高める新たな縫合方法
発表形式	1. <input checked="" type="radio"/> 口頭発表 2. ポスターセッション 3. その他 (使用言語:)

HP掲載用報告 (必ず写真を一枚添付すること) (※)

WSRM (World Society of Reconstructive Microsurgery) は世界最大規模のマイクロサージャリーに関する学会である。私は人工神経に関するセッションにおいて口頭発表を行い、我々が開発した新たな縫合法の有用性について報告した。また他国の医師による最新の手術方法やロボットマイクロサージャリーに関する研究成果について学ぶとともに、日本の医師たちとも情報交換を行うことができ、大変有意義な時間となった。



令和7年度名古屋市立大学 国際学会発表等支援事業 成果報告書
【国際学会発表】

申請者氏名	マツモト ダイスケ 松本 大輔
所 属	大学院医学研究科 博士 課程 5年 (生体機能・構造医学) ※ () 内には、専攻・分野・領域・系列等を記入
国際学会の名称	AUA Annual Meeting 2025
国際学会の主催者	American Urological Association, AUA
開催地	〈国 名〉 アメリカ 〈都市名〉 ラスベガス
参加期間	2025 年 4 月 26 日 ～ 2025 年 4 月 29 日
研究発表演題	Germ cell count in retractile testes is maintained with advancing age 〈和訳〉遊走精巣の生殖細胞数は年齢が上がっても維持されていた
発表形式	①. 口頭発表 ②. ポスターセッション ③. その他 (使用言語:)

HP 掲載用報告

泌尿器科学全体の最新の研究成果や臨床ガイドライン、革新的な治療法に焦点を当てた内容がテーマであった。学会の様子はどの会場でも関連な議論が交わされており、研究者間の交流を多い印象であった。Podium Session においては、小児泌尿器科疾患として頻度の高い遊走精巣をテーマとし、その精巣検体から得られたデータを解析し、発表した。質疑応答では持ち時間いっぱいまで質問がきていたことから、海外においても興味をひく内容の発表ができたと考える。発表後には数人の研究者からコンタクトを求められたり、メールで追加の質問が来たりした。また、自身からも他の演者や座長らと積極的にコンタクトをとり、交流し、連絡先の交換をすることができた。発表を通じて得られたフィードバックや、海外の研究者との交流は、今後の研究につながる大きな成果だったと考える。自身のテーマとは異なる分野の発表についても積極的に聴講し、質問することができた。日本の学会と異なる方式での発表や質疑応答の仕方なども多くみられ、大変勉強になった。研究のさらなる発展につながる成果が得られた。初めての海外学会発表であったため、とても緊張や不安もあったが、いざ発表をすると、質疑応答では海外の研究者から多くの研究発展のための建設的な質問をうけることができた。研究成果を出す上でもこのような場でフィードバックをうけることは重要であると再確認したのと、また、数人の海外の研究者からのコンタクトをうけることもあり、連絡先を交換して交流をもてたことは今後の研究活動にむけての自信につながった。緊張や不安は少し小さくなり、これからも海外学会での発表や、ひいては国際共同研究などで活躍できるとよい、と考えるようになった。



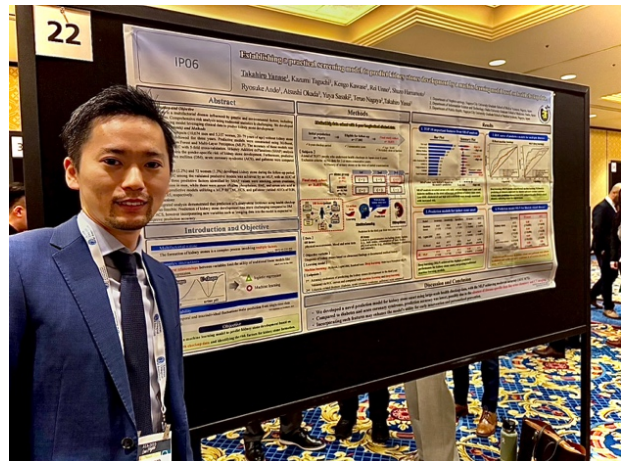
令和7年度名古屋市立大学 国際学会発表等支援事業 成果報告書
【国際学会発表】

申請者氏名	柳瀬 貴弘
所属	医学研究科 課程 3年 (生体機能・構造医学専攻コース) ※ () 内には、専攻・分野・領域・系列等を記入

国際学会の名称	AUA2025(米国泌尿器科学会)
国際学会の主催者	American Urological Association
開催地	〈国名〉アメリカ 〈都市名〉ラスベガス
参加期間	2025年4月26日～2025年4月29日
研究発表演題	Establishing a practical screening model to predict kidney stones development by a machine learning model based on health checkup data. 〈和訳〉健診データに基づく機械学習モデルを用いた尿路結石発症予測のための実用的スクリーニングモデルの確立
発表形式	1. 口頭発表 ②. ポスターセッション 3. その他(使用言語:)

HP 掲載用報告

この度、米国ネバダ州ラスベガスで開催された American Urological Association Annual Meeting 2025 に参加し、Interactive Poster Session にて研究発表を行いました。健康診断データを活用した尿路結石発症予測に関する成果を報告しました。世界最大級の泌尿器科学会での各国の研究者と討論は、大変刺激的で有意義な経験となりました。本学会への参加で得られた経験をもとに研究の発展および、研究力の向上を常に追い求め、今後も継続的に国際学会で成果を発信してまいります。ご指導・ご支援を賜りました先生方、および関係者の皆様に深く感謝申し上げます。



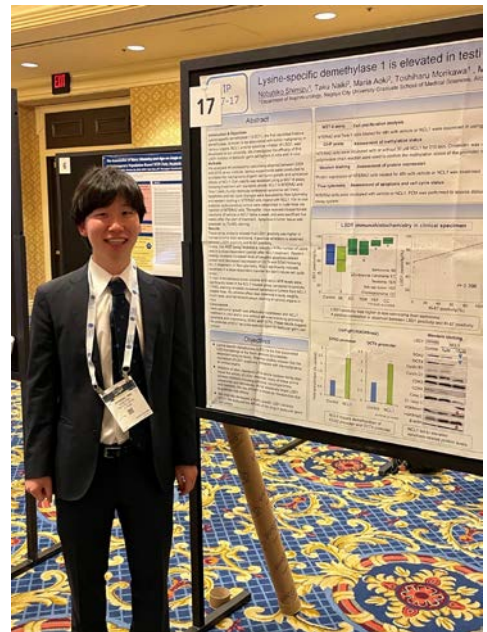
令和7年度名古屋市立大学 国際学会発表等支援事業 成果報告書
【国際学会発表】

申請者氏名	清水 伸彦
所属	大学院医学研究科 博士課程 3年 (生体機能・構造医学専攻) ※ () 内には、専攻・分野・領域・系列等を記入
国際学会の名称	米国泌尿器科学会議 AUA 2025
国際学会の主催者	米国泌尿器科学会
開催地	〈国名〉 アメリカ 〈都市名〉 ラスベガス
参加期間	2025年4月26日 ~ 2025年4月29日
研究発表演題	Evaluation of Lysine-specific demethylase 1 (LSD1) expression and antitumor effects of LSD1 inhibitors, NCL1 and NCD38, in testicular tumors 〈和訳〉 精巣腫瘍におけるヒストン脱メチル化酵素 (LSD1) の発現と LSD1 阻害剤である NCL1 と NCD38 を用いた抗腫瘍効果の検討
発表形式	1. 口頭発表 2. ポスターセッション 3. その他 (使用言語:)

HP 掲載用報告

米国泌尿器科学会議 AUA 2025 はアメリカのラスベガスで開催され世界中から泌尿器科、研究者が集う大規模かつ国際色豊かな学会でした。現在大学院で進めている研究内容である精巣腫瘍におけるヒストン脱メチル化酵素 (LSD1) の発現と LSD1 阻害剤である NCL1 と NCD38 を用いた抗腫瘍効果の検討という演題でポスター発表を行いました。本年度より新たに設けられた「Interactive Poster」セッションで、最初の30分は自由討論の形式で国内外の参加者と活発な意見交換を行うことができました。後半の1時間には自由討論の中でモデレーターによって注目されたいくつかのポスターが選出され、発表者が順に解説しながら全体で議論を進めていく形式が取られました。残念ながら自身のポスターは選出に至りませんでしたが、前半の自由討論において海外の研究者から貴重なコメントや質問をいただく機会に恵まれ、自身の研究の国際的な位置

づけや、今後の課題について多くの示唆を得ることができました。今回の海外派遣は、臨床研究の両方において多くの刺激と学びを得られた非常に有意義な機会となりました。世界各国の研究者による多様なアプローチに触れたことで、自身の研究の立ち位置を客観的に見直すきっかけとなり、今後の研究をさらに発展させていくためのヒントを得ることができました。また、臨床においても、新しい治療戦略や進行中の治験といった最先端の知見を得ることができ、患者さんに還元できると実感しております。今後はより国際的な視点を持って研究と臨床に取り組みたいと思います。



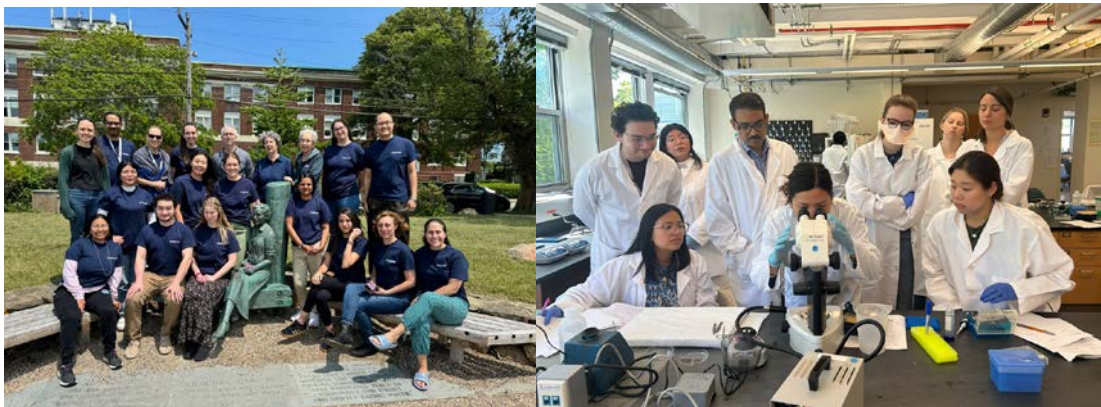
令和7年度名古屋市立大学 国際学会発表等支援事業 成果報告書
【共同研究・研究指導】

申請者氏名	フリガナ DIONISIO ZUNIGA JOSELYN BEATRIZ ディオニシオスニガジョスリンベアトリス
所属	大学院医学研究科 修士課程2年（環境労働衛生学） ※（ ）内には、専攻・分野・領域・系列等を記入

受入大学	Marine Biological Laboratory- University of Chicago
大学の所在国	〈国名〉アメリカ合衆国
研究課題	Endocrine-Disrupting Chemicals: Hazards and Opportunities (ECHO) The course focuses on the chemical, biological, and societal challenges of endocrine-disrupting chemicals (EDCs) and new opportunities for moving forward. 〈和訳〉このコース（ECHO）では、内分泌かく乱化学物質（EDC）の化学的、生物学的、社会的課題とその解決策について焦点を当てる。
現地滞在期間	2025年05月21日～2025年06月04日

HP掲載用報告

I am greatly thankful for the opportunity to join the ECHO course, as I learn from many accomplished scientists along with early career researchers from a wide variety of scientific backgrounds. The study of EDC is a relatively novel field, and a multidisciplinary approach is required to keep the field evolving and to further the assessment and management of these hazardous chemicals. During my stay at the Marine Biological Laboratory, I was able to share my research and obtain feedback from many brilliant people, and I learned to communicate effectively that research even when our expertise does not completely overlap. I finished the ECHO course with a better, solid understanding of the hot topics on EDC research, particularly of PFAS, the main exposure I work on my current thesis, and BPA and phthalates, chemicals of particular interest for several of the projects in my department.



令和7年度名古屋市立大学 国際学会発表等支援事業 成果報告書
【国際学会発表】

申請者氏名	宮口 祐樹		
所 属	医学研究科	博士課程	3年 (腎臓内科学)
※ () 内には、専攻・分野・領域・系列等を記入			

国際学会の名称	The 62th European Renal Association congress 2025 (第62回欧州腎臓学会議)
国際学会の主催者	European Renal Association
開催地	〈国名〉 オーストリア 〈都市名〉 ウィーン
参加期間	2025年6月4日～2025年6月7日
研究発表演題	Concomitant use of renin-angiotensin system inhibitors and bortezomib were associated with a higher incidence of hyponatremia 〈和訳〉 レニン・アンジオテンシン系阻害薬とボルテゾミブの併用は低ナトリウム血症の発生率の上昇と関連する
発表形式	①口頭発表 2. ポスターセッション 3. その他 (使用言語:)

HP 掲載用報告

□ 学会のテーマ・様子

European Renal Association (ERA) は28000人以上の会員を擁する世界最大の腎臓学会の1つであり、ERAが主催し開催されるERA congressは年1回ヨーロッパの主要都市で開催され、腎臓に関する基礎研究および臨床研究に従事する世界各国の研究者・医療者が一堂に会する国際会議である。今回私が参加したThe 62th European Renal Association congress 2025はウィーンで開催されたが、ヨーロッパ諸国からだけでなく、北米や南米、アジアの国々の参加者も多く、会場では参加者同士の英語による活発な議論が行われていた。

□ 研究発表内容

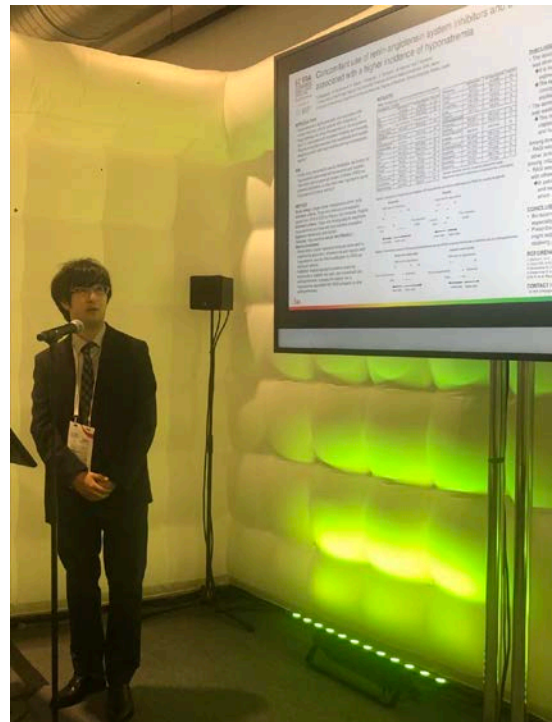
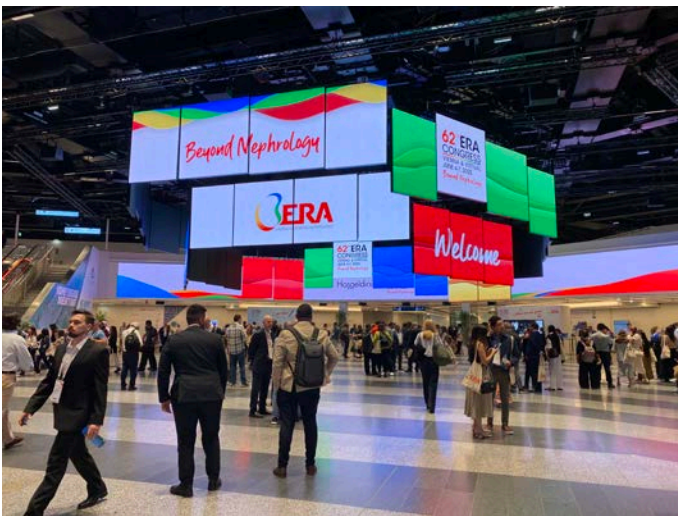
名古屋市立大学病院化学療法室で抗腫瘍薬による治療を受けた患者5506人を対象とし、混合効果ロジスティック回帰分析を用いて解析した結果、ボルテゾミブと低ナトリウム血症の関連はRAS阻害薬が使用されている患者においてより強く、シスプラチンと低ナトリウム血症の関連はRAS阻害薬が使用されている患者においてより弱いことがわかった。また、降圧薬が使用されている患者に限定した解析も行ったところ、ボルテゾミブが投与されている患者においてRAS阻害薬の使用は他の降圧薬の使用に比べて有意に低ナトリウム血症と関連していたが、シスプラチンが投与されている患者においてはそのような関連はみられなかった。以上から、ボルテゾミブが投与されている患者ではRAS阻害薬以外の降圧薬を処方することで、低ナトリウム血症の発症率が低下する可能性が示唆され、これらの解析結果についての発表を英語で行った。

□ 成果

今回 ERA congress 2025 に参加したことで、腫瘍腎臓病学（Onconephrology）を含む世界の腎臓領域の研究の最新動向を知ることができ、今後研究を発展させていくうえで有益であった。また、過去に報告のない知見を自ら英語で口頭発表することができ、英語での議論の機会を得たことは、研究へのさらなる意欲向上につながった。

□ 感想

海外の学会での発表の機会は今回が初めてであり、しかも口頭発表ということで準備も含めて苦勞したが、無事に終えることができ自信につながった。一方で、自身の英語力が不足し議論の内容が十分に理解できない場面や、自身の意見を英語で伝えることができない場面があり、悔しい思いもした。今後も研究を続けつつ英語力の向上にも努め、日本国内の学会だけにとどまらず来年以降も国際学会での経験を積んでいきたいと切に感じた。



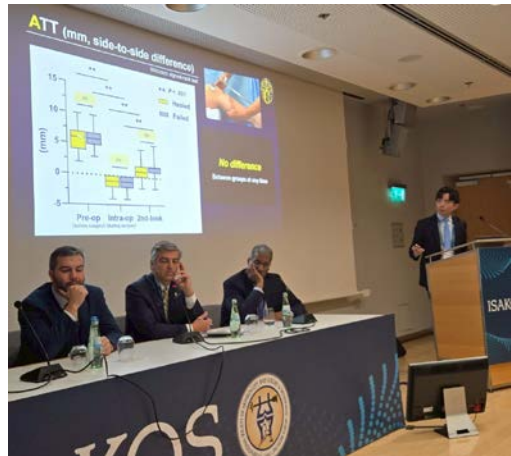
令和7年度名古屋市立大学 国際学会発表等支援事業 成果報告書
【国際学会発表】

申請者氏名	花木 俊太
所属	医学研究科 課程 4年(整形外科学) ※ () 内には、専攻・分野・領域・系列等を記入

国際学会の名称	第 15 回国際関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会議 (15th Biennial International Society of Arthroscopy, Knee Surgery and Orthopedic Sports Medicine Congress)
国際学会の主催者	国際関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会 (International Society of Arthroscopy, Knee Surgery and Orthopedic Sports Medicine)
開催地	〈国名〉 ドイツ 〈都市名〉 ミュンヘン
参加期間	2025年 6月 8日 ~ 2025年 6月 11日
研究発表演題	① Effect of Combined Anterolateral and Anterior Cruciate Ligament Reconstruction for High-Grade Pivot Shift: Quantitative Evaluation Under Anesthesia 〈和訳〉重度ピボットシフトに対する前外側靭帯および前十字靭帯同時再建術の効果：麻酔下での定量的評価 ② Rotational Knee Laxity Associated with Failed Meniscal Repair: Second-Look Arthroscopy After ACL Reconstruction 〈和訳〉半月板修復不全と膝の回旋不安定性との関連：ACL 再建後のセカンドルック関節鏡視下での評価
発表形式	① . ②ともに 口頭発表 (使用言語：英語)

HP 掲載用報告	<p>ISAKOS 2025 (The 15th Biennial Congress of the International Society of Arthroscopy, Knee Surgery and Orthopaedic Sports Medicine) は、2025年6月8日から11日にかけて、ドイツ・ミュンヘン (International Congress Center Messe München) にて開催された。「整形外科スポーツ医学のグローバルな進化と統合的アプローチ」をテーマに掲げ、関節鏡、膝外科、肩・肘外科、スポーツ整形外科に関する最新の研究成果や技術が世界中の医師・研究者から発表された。本学会で私は、2題の口頭発表を行った。発表後には多くの聴講者から質問や意見をいただき、特に ALL 再建の適応基準やその術式、定量的評価法への関心が高かった。また、半月板治癒と回旋不安定性の関連性に関する報告は、今後の術後評価や治療方針における重要な示唆を与えるとして評価された。発表を通じて、当院における研究体制や臨床応用への取り組みを国際的に発信することができたことは、非常に大きな意義があったと考えている。ISAKOS は非常にハイレベルな学術集会であり、参加を通じて自分自身の研究が世界の中でどの位置にあるかを確認する良い機会となった。また、発表準備や英語での質疑応答を通じ</p>
----------	---

て、国際学会での伝え方や発信力の重要性を再認識した。本学会で得た知見と経験は、今後の研究活動や後進の育成にも大きく貢献するものと考えており、引き続き、国際的に通用する整形外科医・研究者を目指して研鑽を積んでいきたい。

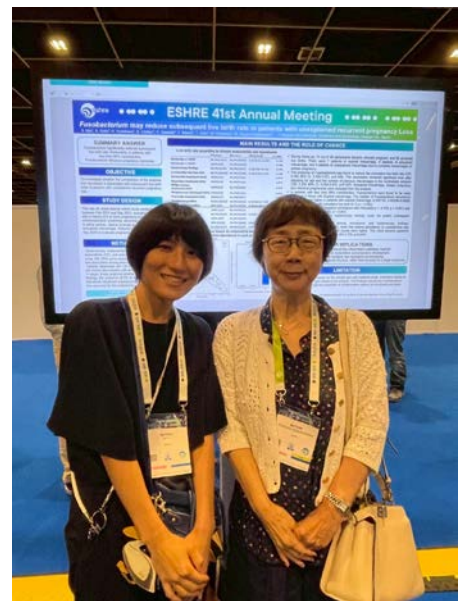


令和7年度名古屋市立大学 国際学会発表等支援事業 成果報告書
【国際学会発表】

申請者氏名	キトウ サトコ 鬼頭 慧子
所属	医学研究科 博士課程 2年（ 生体情報・機能制御医学専攻 ） ※（ ）内には、専攻・分野・領域・系列等を記入

国際学会の名称	ESHRE 41st Annual Meeting
国際学会の主催者	欧州生殖医学会
開催地	〈国名〉フランス 〈都市名〉パリ
参加期間	2025年 6月 29日 ～ 2025年 7月 2日
研究発表演題	<i>Fusobacterium</i> may reduce subsequent live birth rate in patients with unexplained recurrent pregnancy Loss 〈和訳〉 <i>Fusobacterium</i> の感染は不育症患者の生児獲得率を減少させる
発表形式	①. 口頭発表 ②. ポスターセッション 3. その他（使用言語： ）

2025年6月29日～7月2日にフランス・パリで開催された第41回ヨーロッパヒト生殖学会（ESHRE 2025）にて、研究成果のポスター発表を行いました。本学会は、生殖医療分野における世界最大規模の国際学会であり、世界中から数千人を超える医師・研究者が集い、最新の研究成果や臨床知見が共有される貴重な場です。今回の発表では、「*Fusobacterium* may reduce subsequent live birth rate in patients with unexplained recurrent pregnancy Loss」をテーマに、自施設での臨床研究成果を報告いたしました。本発表を通じて、反復流産におけるマイクロバイオーーム研究が国際的にも高い関心を集めていることを実感しました。会場では多数の研究者との意見交換が行われ、さまざまな視点からのフィードバックを得ることができました。また、他の演題では、反復流産（RPL）患者に対して CD138 陽性細胞を指標とした慢性子宮内膜炎に対する抗生剤治療のランダム化比較試験（RCT）が報告されるなど、本領域における大規模臨床研究が進行していることを目の当たりにしました。自らが取り組んでいる臨床研究が、まさに国際的な課題として注目されていることを再認識するとともに、今後はより高いエビデンスレベルを意識した研究設計が必要であると感じています。現在、本研究は筆頭著者として論文化に向けて準備を進めており、近く学術誌への投稿を予定しています。今回の学会参加を通じて、国際共同研究には至りませんでした。が、類似領域での大規模 RCT の存在を確認できたことにより、自身の研究の位置づけや強みを見直す貴重な機会となりました。今後は、他施設との共同研究や対象数の拡大も視野に入れながら、より実臨床に還元可能なエビデンスの構築に取り組んでまいります。



令和7年度名古屋市立大学 国際学会発表等支援事業 成果報告書
【国際学会発表】

申請者氏名	FADILAH ASRIL (ファディラーアスリル)
所属	Graduates School of Pharmaceutical Science 研究科 Doctoral 課程 2 年 (Drug Delivery and Nanopharmaceutics) ※ () 内には、専攻・分野・領域・系列等を記入

国際学会の名称	The 7th International Conference on Bioscience and Medical Engineering (ICBME) in Conjunction With The 2nd Brawijaya International Conference on Pharmacy (BICP)
国際学会の主催者	Faculty of Medicine, Universitas Brawijaya, Indonesia
開催地	〈国名〉 Indonesia 〈都市名〉 Malang
参加期間	2025 年 5 月 26 日 ~ 2025 年 5 月 28 日
研究発表演題	Gold Nanostars Coated with Mesoporous Silica for Laser-Triggered Chemo-Photothermal Therapy 〈和訳〉 レーザー誘導化学光熱療法のためのメソポーラスシリカでコーティングされた金ナノスター
発表形式	①. 口頭発表 2. ポスターセッション 3. その他 (使用言語:)

HP 掲載用報告



Attending this conference is highly beneficial for graduate students who aspire to pursue careers in academia, research, or industry. It offers not only valuable knowledge and insights but also constructive advice from experts in the field. Moreover, the connections made and the opportunity to engage in discussions with researchers from diverse backgrounds are truly invaluable.

令和7年度名古屋市立大学 国際学会発表等支援事業 成果報告書
【国際学会発表】

申請者氏名	山下 凜
所属	薬学研究科 博士前期課程 2年（創薬生命科学専攻 薬物送達学） ※（ ）内には、専攻・分野・領域・系列等を記入

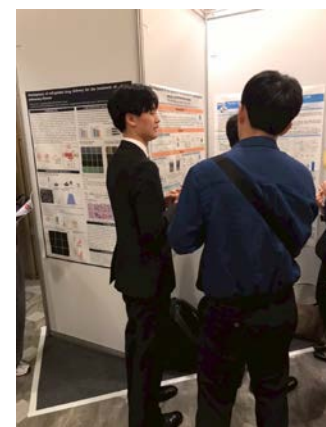
国際学会の名称	第4回日韓若手薬剤学研究者ワークショップ
国際学会の主催者	Korean Society of Pharmaceutical Science and Technology Innovation
開催地	〈国名〉韓国 〈都市名〉ソウル
参加期間	2025年 6月 26日 ～ 2025年 6月 27日
研究発表演題	Development of a preparation method for iron-platinum nanoparticles that does not require high temperature reaction and its application to cancer photothermal therapy 〈和訳〉高温反応を必要としない鉄白金ナノ粒子の調製法の開発とがん光温熱療法への応用
発表形式	1. 口頭発表 2. ポスターセッション 3. その他（使用言語： ）

HP 掲載用報告

□ 学会のテーマ・様子

本セミナーは「日韓の若手研究者の交流」を主テーマに掲げ、製剤学、ドラッグデリバリーシステム（DDS）、薬物動態（PK/PD）、ナノテクノロジー、再生医療など、薬剤学に関連する幅広い分野の研究が取り上げられました。

学会では、最新の研究成果が、講義形式の発表や学生による口頭発表、ポスター発表など多様な形式で共有されました。発表後には国籍を問わず活発な質疑応答が行われ、研究内容への理解を深める貴重な機会となりました。



□ 研究発表内容

「Development of iron-platinum nanoparticles for application to cancer photothermal therapy」という題目で、ポスター発表を行いました。

本研究では、従来 230℃以上の高温加熱を必要としていた鉄白金（FePt）ナノ粒子の合成条件を改良し、60℃という低温での調製を可能にしました。これにより、エネルギー効率の向上と研究室における安全性の確保が実現されました。

さらに、合成した粒子は光照射により活性酸素種や熱を発生することが確認され、光線力学療法（PDT）および光温熱療法（PTT）への応用が期待されます。

□ 成果

ポスター発表や質疑応答、他の参加者による口頭発表を通じて、光を用いたがん治療に関する理解を深めることができました。特に、光照射による治療の最新研究を学ぶ中で、腫瘍への選択的アプローチや治療効率の向上に向けた多様な技術に触れることができました。

また、マイクロニードルと金属ナノ粒子を組み合わせた治療法に関する発表では、経皮投与による皮膚がん治療の可能性が示されており、自身の研究への応用に向けた新たな着想を得ることができました。

□ 感想

初めての国際学会参加であり緊張もありましたが、世界中の若手研究者による最先端の研究成果に直接触れる非常に貴重な機会となりました。これまで国内では類似研究が少なく、自らの研究を客観的に評価する機会が限られていました。今回の学会参加を通じて、光を利用したがん治療の分野における国際的な動向や研究の位置づけを把握することができました。

一方で、英語による発表の聞き取りやディスカッションにおいて、理解に時間を要する場面もあり、今後の課題として認識しています。今回得られた学びや気づきを、今後の研究活動および日常の学習に積極的に活かしていきたいと考えています。



令和7年度名古屋市立大学 国際学会発表等支援事業 成果報告書
【国際学会発表】

申請者氏名	新海 斗馬
所属	薬学研究科 博士前期課程 2年（創薬生命科学専攻薬物送達学分野） ※（ ）内には、専攻・分野・領域・系列等を記入

国際学会の名称	The 4 th Korea-Japan Young Scientists Workshop on Pharmaceutics
国際学会の主催者	Hea-Young Cho, Ph.D.
開催地	〈国名〉韓国 〈都市名〉ソウル
参加期間	2025年 6月 26日 ～ 2025年 6月 27日
研究発表演題	Cholic acid-mediated targeting of mRNA-LNPs improve the mRNA delivery to Caco-2 cells 〈和訳〉 コール酸表面修飾による mRNA-LNPs の Caco-2 細胞への取り込み改善
発表形式	① 口頭発表 ② ポスターセッション 3. その他（使用言語：英語）

本研究は経口投与を行った際の mRNA 封入脂質ナノ粒子(mRNA-LNPs)の消化管取り込みを向上させる目的で行われた。mRNA-LNPs の経口投与を可能とするためには解決すべき多くの課題が存在するが、その一つが小腸での取り込みである。経口投与の場合、その他の方法で投与した場合と異なり、特定の組織への取り込みを向上させるメカニズムが知られていない。また、小腸上皮に存在するムチン層もナノ粒子の透過性を阻害することが考えられる。本研究では PEG 鎖を用いて粒子表面にコール酸修飾を施した粒子(Cholic-PEG-LNPs)を作製した。修飾したコール酸は小腸上皮に発現する胆汁酸トランスポーターと相互作用することで取り込みを向上させることが知られている。また、PEG 修飾はムチン層透過性を向上させることが知られている。胆汁酸トランスポーターを発現する細胞を用いて行った *in vitro* 実験では、胆汁酸を修飾していないコントロール群に比べ、Cholic-PEG-LNPs の細胞内取り込み及び、タンパク質発現機能の向上が確認された。また、ムチンとトランズウェルインサートを用いて行った実験では Cholic-PEG-LNPs のムチン層透過性の向上が確認された。これらの結果から、本研究で施した修飾は経口投与用の mRNA-LNPs の小腸での取り込みを改善する戦略となることが示唆された。

私は英語でのコミュニケーションに自身がなかったため、このような発表の機会を頂けたときに自身のスキルアップのための良い機会であると感じた。実際に多くの外国人と英語で会話をする機会があり充実した学会となった。口頭発表にて発表者賞を頂くことができたことも今後のモチベーションにつながった。その一方で私と同学年で自分より優秀な研究者がたくさんいることも改めて実感し、研究力や発表スキルなど、研究者として必要な技術をより身に付けていけないといけないと感じた。彼らの存在を意識しながら、研究者として追い越せるように努力してきたと感じた。学会外でも韓国の文化に触れることができ、人間としても成長できる機会となった。



令和7年度名古屋市立大学 国際学会発表等支援事業 成果報告書
【国際学会発表】

フリガナ 申請者氏名	ダス ジャイタ Das Jayita
所 属	Nagoya City University 研究科 Pharmaceutical Science 課程 D3 年 (DDS) ※ () 内には、専攻・分野・領域・系列等を記入

国際学会の名称	10 th International Conference on Pharmacy and Pharmaceutical Science
国際学会の主催者	ICPPS 2025
開催地	〈国 名〉 South Korea 〈都市名〉 Jeju
参加期間	2025 年 06 月 27 日 ~ 2025 年 06 月 30 日
研究発表演題	3D printed hydrogel scaffold loaded with silver nanoparticles for localized photothermal activity in melanoma 〈和訳〉
発表形式	1. <input checked="" type="checkbox"/> 口頭発表 2. ポスターセッション 3. その他 (使用言語:)

HP 掲載用報告



researchers and present my work on an international platform.

I have presented my research results which include characterization of silver nanoparticles, preparation of hydrogel, characterization of hydrogel scaffold and photothermal activity of silver nanoparticles incorporated inside the hydrogel scaffold. In conclusion I have successfully presented my research results and also presented the future work needed to complete the work. This conference was a great opportunity for me to meet

令和7年度名古屋市立大学 国際学会発表等支援事業 成果報告書
【国際学会発表】

フリガナ 申請者氏名	ツジタノ 辻賢斗
所 属	芸術工学研究科 博士前期課程 1年（ 建築都市デザイン ） ※（ ）内には、専攻・分野・領域・系列等を記入

国際学会の名称	CLIMA2025
国際学会の主催者	Claudio Zilio
開催地	〈国 名〉 イタリア 〈都市名〉 ミラノ
参加期間	2025 年 6 月 4 日 ～ 2025 年 6 月 6 日
研究発表演題	The feasibility study on the hollow fiber membrane dehumidification system coupling with conventional air conditioning system 〈和訳〉従来空調システムにおける中空糸膜除湿システムの実用可能性に関する研究
発表形式	①. 口頭発表 2. ポスターセッション 3. その他（使用言

HP 掲載用報告



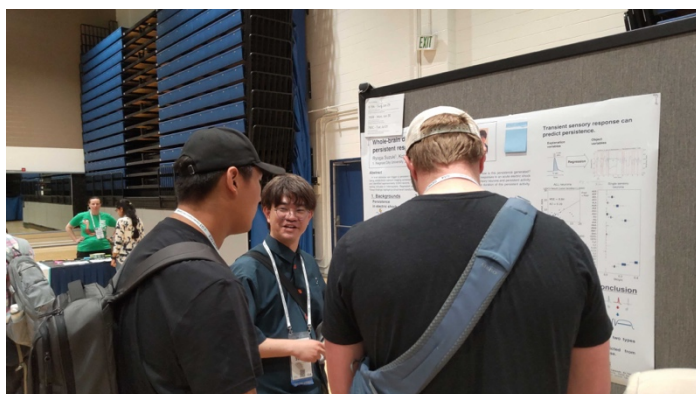
EU地域をはじめとした世界各国の空気調和技術者が集うCLIMAという国際学会の場で発表し情報を発信することと、意見交換を行うことを通して、最新の動向を把握することができました。今回の国際学会の参加は、新鮮な学びが多く、非常に実りある機会であり、自研究にとって良い刺激となりました。

令和7年度名古屋市立大学 国際学会発表等支援事業 成果報告書
【国際学会発表】

申請者氏名	鈴木 涼月
所属	理学研究科 博士後期課程 2年 (理学情報専攻) ※ () 内には、専攻・分野・領域・系列等を記入

国際学会の名称	25th International Worm Meeting
国際学会の主催者	Genetics Society of America
開催地	〈国名〉 America 〈都市名〉 Davis, California
参加期間	2025年6月28日～ 2025年7月2日
発表予定演題	Whole-brain dynamics underlying persistent response to electric shock 〈和訳〉電気ショックへの持続的応答を生む全脳活動
発表形式	1. 口頭発表 ② ポスターセッション 3. その他 (使用言語:)

HP 掲載用報告



25th International worm meeting は、C. エレガンスをはじめとした線虫や、関連生物についての研究を行う研究者が世界中から集う大規模な学会である。本学会は神経科学や遺伝学、発生・細胞生物学、生理学、生態学など非常に多様なトピックを有しており、2025年度は1200人以上が参加し、約180件の口頭発表、約800件のポスター発表があった。これらに加え、ワークショップや基調講演、さらには、2024年ノーベル医学・生理学賞を受賞した Ambros 博士・Ruvkun 博士によるノーベル賞受賞記念講演が催され、大変な盛況となった。学会期間には、参加した研究者たちは、国籍問わず活発な議論を行ない、研究者間の交流を深めた。

ポスター発表では、合計15名ほどの海外の研究者と議論を行なった。実験手法についての質問を多く受け、さらに、神経活動の計測結果についてのコメントを多く受けた。特に、私の手法と似た手法を扱う研究者たちからのコメントは実践的・詳細なものが多く、非常に有意義な時間を過ごすことができた。また、研究のトピックの広げ方、問題点なども指摘を受け、自身の研究を見つめ直すきっかけとなった。

さらに、自身の発表以外でも、多くの発表を聞き、質問や議論をすることで、広く学ぶことができた。同時に、英語でのコミュニケーションにも挑戦することができた。

ポスター発表に来ていただいた研究者が、私の研究する現象について、新たなメカニズムの仮説を提示してくださった。この実現のためには、国際共同研究が必要であり、今後国際共著につながる可能性が高い。

今回の海外での学会参加で、私は強い刺激を受けた。日本語話者が（ほとんど）いない環境で、約一週間過ごすこと、その間研究の議論をすることで、英語でのコミュニケーションにおいてもサイエンスにおいても自分の実力不足を実感した。

まず英語でのコミュニケーションについて、現時点では、自身の考えを議論のスピードで正確に伝えることが難しかった。また、相手の意図を十分に汲み取りきれないことがあった。今後は英語のヒアリングとスピーキングともに、スピードをあげることを目標にしたい。

サイエンスにおいては、自身の研究背景を理解してもらうことが難しかった。特に、言語の問題もあったが、もっとインパクトがあり、シンプルなストーリー構築が必要と考えた。

令和7年度名古屋市立大学 国際学会発表等支援事業 成果報告書
【国際学会発表】

申請者氏名	家田 花歩
所属	理学研究科 博士後期課程 1年 (理学情報専攻) ※ () 内には、専攻・分野・領域・系列等を記入

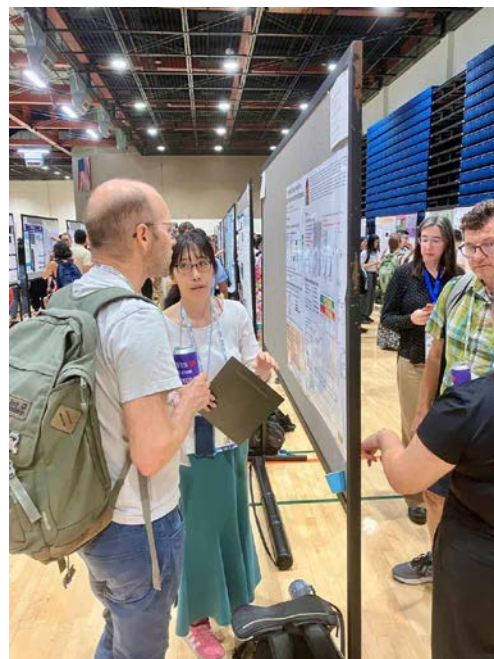
国際学会の名称	25th International Worm Meeting
国際学会の主催者	Genetics Society of America
開催地	〈国名〉 America 〈都市名〉 Davis, California
参加期間	2025年6月28日～ 2025年7月2日
研究発表演題	Toward cloning of genes regulating developmental speed in <i>C. elegans</i> 〈和訳〉発生速度を制御する新規遺伝子群のクローニングに向けて
発表形式	1. 口頭発表 2. ポスターセッション 3. その他 (使用言語: 英語)

HP 掲載用報告

25th International Worm Meeting は、モデル生物である線虫 *C. エレガンス* を研究対象として使う研究者が世界中から集まる大規模な国際学会です。今年度は米国のカリフォルニア大学デービス校で 5 日間行われ、学生・研究員・教員など 1250 名ほどが参加、口頭発表が約 180 件、ポスターセッションが約 800 件あり、活発な議論が行われました。また、その他ワークショップやノーベル賞受賞者（2024 年のノーベル医学生理学賞を線虫研究者が受賞）の講演など、大変な盛況となっていました。

私は「Toward cloning of genes regulating developmental speed in *C. elegans*」という題目でポスター発表を行いました。発生速度 (developmental speed) の変化は多くの生物種で観察される現象ですが、どのようにして発生速度の変化が制御されているのかは不明です。私は、線虫 *C. エレガンス* を用いて、このメカニズムを解明することを目標とした研究を発表しました。このメカニズムを明らかにすることで、学問への貢献だけでなく、臓器培養や食糧成長を速めたりすることなど、医療・社会的な貢献も見込んでいます。

私のポスター発表では、合計で 20 名程度の海外の研究者との議論ができました。特に、複数の研究者から、研究上の課題となっていたいくつかの評価手法について、具体的な手法や設備提供など共同研究の提案を受けました。具体的な計画は未定であるものの、これらの研究者と協力することは大きなメリットであるため、本研究が国際共著論文になる可能性があります。本学会は、線虫研究者が集まっているため、実験手法や技術に関して、他の学会よりも詳しい議論や手法の提案を受けられました。また、



私の研究の概念に関してトップレベルの研究者から大変興味深いという評価や、クリティカルな質問を受けることができました。また、自分の発表以外にも多くの発表・講演があり、多様な研究内容や研究への取り組み方を学ぶことができました。

私にとって海外の学会参加は今回が初めてでした。不安も大きかったです。渡航、発表、海外での生活、文化の違いなど、多くの刺激がありました。まずは、自分の研究発表で海外の研究者らと議論・交流できたこと、複数の研究アイデアをいただいたことは、大きな成果と考えています。また、外国人のオープンで明るい研究態度・制度は、日本とは全く異なるものを感じました。今後、本学会で得た人脈やアイデアを活用し、研究をよりよい方向へ進めていきたいと感じました。

英語に関しては、自分の研究内容の議論を行うことができました。しかし、他の研究者の講演や、ジョークを交えた日常的なコミュニケーションなど、外国人の速い英語を聞き取るのは難しい部分もあり、ヒヤリング能力の不足、文化的知識の不足を痛感しました。今後は、研究とともに英語能力の底上げを目標に学んでいこうと感じました。

令和7年度名古屋市立大学 国際学会発表等支援事業 成果報告書
【国際学会発表】

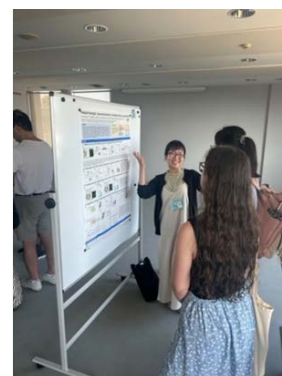
申請者氏名 フリガナ	たかむら ゆき 高村 侑希
所属	医学研究科 博士課程 2年（生体防御・総合医学専攻 認知機能病態学寄附講座） ※（ ）内には、専攻・分野・領域・系列等を記入

国際学会の名称	Gordon Research Seminar (GRS), Gordon Research Conference
国際学会の主催者	Kate Wassum
開催地	〈国名〉スペイン 〈都市名〉バルセロナ
参加期間	2025年7月12日 ～ 2025年7月18日
研究発表演題	Histaminergic neuronal activity modulates memory accessibility 〈和訳〉
発表形式	1. 口頭発表 ② ポスターセッション 3. その他（使用言語： ）

HP 掲載用報告

□ 研究発表内容

ポスター発表では、自身の現在行っている「ヒスタミン神経活動のゆらぎと記憶想起のゆらぎの関係」に関する研究について発表した。同じ手がかりが与えられたとしても、記憶を思い出せるときと思い出せない時がある。この記憶想起の揺らぎを調節する神経メカニズムは未解明のままである。我々は、抗ヒスタミン薬の副作用として記憶障害が存在することに着目し、脳内のヒスタミン神経が記憶の想起を調節しているのではないかと考えた。本研究では手がかり提示前のヒスタミン神経活動が手がかりに対する BLA 神経表象を変化させることで、記憶想起の変動を調節している可能性を明らかにした。



□ 成果

ポスター発表では Kay Tye 教授や Andrew Fenton 教授など多くの PI の方やポスドク・博士課程の方などに発表を行えた。ヒスタミン神経が共放出する伝達物質の影響や受容体のサブタイプを解明する実験など、自身の研究をよくするために行うべきことについてアドバイスをいただいた。また、昼食や夕食時間・自由時間には PI の方や他のポスドク・博士課程学生の方々と今後のキャリアに関する話や雑談を行った他、一緒にビーチに赴いたりゲームをしたりなど交流を深めた。また、ポスター発表以外の場で Nature Communications と Nature Neuroscience の editor の方と自分の研究に関して、論文を投稿するうえで追加すべき内容に関するアドバイスをいただいた。

□ 感想

国際学会でのポスター発表は2回目だが、1回目は日本開催で英語での発表機会は少なかったため、今回多くの方と英語



で自身の研究に関するディスカッションをすることができて楽しかった。また研究室から 1 人での参加で誰も知り合いがいなかったため不安であったが、ルームメイトや食事の際近くにいた方が非常に優しく接して下さったことで不安もなくなり、ビーチやバー、観光地などに休み時間に一緒に行くこともでき非常に楽しかった。同時に、ポスターでの質疑応答や休み時間の雑談ではうまく回答できない場面が多々あり、自身の英語力（話す力も聞く力）不足を痛感した。今後、発表の機会を積む他、英語での交流を積極的に行うことで英語力を高めていき、より楽しく活発な交流・議論が行えるようにしたい。

令和7年度名古屋市立大学 国際学会発表等支援事業 成果報告書
【国際学会発表】

申請者氏名	帝釈 敦仁
所属	医学研究科 博士課程 2年 (生体情報・機能制御医学専攻 社会復帰医学講座 脳神経外科学)

国際学会の名称	Hydrocephalus 2025 第17回国際水頭症学会
国際学会の主催者	Eric Schmit
開催地	〈国名〉 フランス 〉 〈都市名〉 トゥールーズ
参加期間	令和7年 9月 5日 ~ 令和7年 9月 8日
研究発表演題	Quantitative gait analysis using a deep learning-based application reveals distinct upper and lower limb movement patterns in Hakim's and Parkinson's disease 〈和訳〉3次元動作解析アプリケーションを用いた病的歩容の定量的解析 ハキム病（特発性正常圧水頭症）とパーキンソン病の違い
発表形式	1. 口頭発表 2. ポスターセッション 3. その他（使用言語：英語）

HP 掲載用報告

フランス・トゥールーズで開催された Hydrocephalus 2025（第17回国際水頭症学会）に参加し、口頭発表を行った。若手研究者賞に採択され、スマートフォンアプリケーションによる定量的な歩容解析についての結果を発表した。基礎研究者と臨床家が一堂に会する国際学会で、特に同世代の若手研究者、脳外科レジデントと議論を交わすことができ、研究意欲の向上、新しいアイデア、国際標準の研究内容を学ぶことができた。今後も研究内容を深め学会発表、論文文化をすすめていきたい。



令和7年度名古屋市立大学 国際学会発表等支援事業 成果報告書
【国際学会発表】

フリガナ 申請者氏名	よじた こうへい 藤田 康平
所 属	医学研究科 博士課程 4年 (消化器外科) ※ () 内には、専攻・分野・領域・系列等を記入

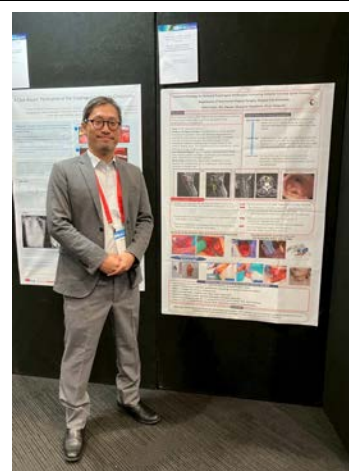
国際学会の名称	21st ISDE World Congress for esophageal Diseases
国際学会の主催者	The International Society for Diseases of the Esophagus
開催地	〈国 名〉 オーストラリア 〈都市名〉 ブリスベン
参加期間	2025年 9 月 18 日 ～ 2025年 9 月 20 日
研究発表演題	Treatment Strategy for Delayed Esophageal Perforation Following Anterior Cervical Spine Fixation 〈和訳〉 頸部前方固定術後に遅発性食道穿孔を来した症例に対する治療戦略
発表形式	1. 口頭発表 2. <input checked="" type="checkbox"/> ポスターセッション 3. その他 (使用言語:)

HP 掲載用報告 (必ず写真を一枚添付すること) (※)

本学会は、食道疾患に関する世界最大規模の国際学会であり、全世界から食道疾患を専門とする医師・研究者が集結した。会期中は、食道良性疾患から悪性疾患に対する手術・化学療法・集学的治療まで、多岐にわたる分野に関して発表・議論が行われ、最新の知見を共有する場となった。

発表を通じて、稀少で標準化が難しい合併症に対する治療戦略を国際的に発信できたことは大きな成果である。また、自施設での経験を国際的に共有することで、同様の症例に対する理解を深め、今後の臨床・研究の発展につながる基盤を築くことができた。

世界の第一線で活躍する食道外科医・研究者と直接交流し、最新の知見と多様な治療戦略に触れることができた。自身の発表を通じて得られた議論は、今後の臨床・研究活動において大きな糧となり、国際的な視野を持って診療・研究を進める重要性を改めて実感した。



令和7年度名古屋市立大学 国際学会発表等支援事業 成果報告書
【国際学会発表】

申請者氏名 フリガナ	ナカシマ ユウスケ 中島 佑介
所属	医学研究科 博士課程 3年 (生体防御・総合医学専攻) ※ () 内には、専攻・分野・領域・系列等を記入

国際学会の名称	ASTRO's 67th Annual Meeting (2025 ASTRO Annual Meeting)
国際学会の主催者	American Society for Radiation Oncology
開催地	〈国名〉USA 〈都市名〉San Francisco
参加期間	2025年 9月 27日 ～ 2025年 10月 1日
研究発表演題	Effects of Therapeutic Factors on Loco-Regional Recurrence in Chemoradiotherapy for Early-Stage Extranodal NK/T-Cell Lymphoma
発表形式	ポスターセッション

HP 掲載用報告

サンフランシスコにて開催された第67回米国放射線腫瘍学会 (ASTRO) に参加した。今回は“Rediscovering Radiation Medicine and Exploring New Indications”をテーマに世界中から放射線腫瘍医、医学物理士、放射線技師など、放射線治療に携わる数多くの専門家が集まり、最新の研究成果や最先端の技術が発表・議論される学会である。今回が初めての国外での学会であったので緊張したが、無事発表を終えることができた。また、海外の参加者と参加者と交流することができ貴重な経験を得ることができた。また、企業展示では、日本未導入の高精度な放射線治療機器や、AIを活用した最新の放射線治療計画装置などを視察し、世界の先進的な技術動向を学ぶことができた。本学会で得た最新の知識と経験を、今後の臨床および研究活動に活かし、医療の質の向上に貢献していきたい。



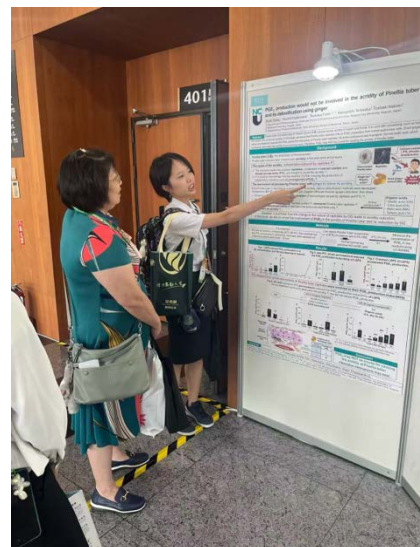
令和7年度名古屋市立大学 国際学会発表等支援事業 成果報告書
【国際学会発表】

申請者氏名	能瀬 逸紀
所属	薬学研究科 博士後期課程 1年（創薬生命科学専攻 生薬学分野） ※（ ）内には、専攻・分野・領域・系列等を記入

国際学会の名称	The 21th International Congress of Oriental Medicine
国際学会の主催者	International Society of Oriental Medicine
開催地	〈国名〉 台湾 〈都市名〉 台北
参加期間	2025年8月30日 ～ 2025年8月31日
研究発表演題	PGE ₂ production would not be involved in the acidity of Pinellia tuber and its detoxification using ginger 〈和訳〉 PGE ₂ は半夏のイガイガと生姜による減毒処理に関与しない
発表形式	1. 口頭発表 ②. ポスターセッション 3. その他 (使用言語: 英語、中国語)

HP 掲載用報告

台北で開催された第21回国際東洋医学会学術総会（International Congress of Oriental Medicine）に参加し、ポスター発表を行いました。著名な先生方の講演を拝聴し勉強になったと同時に、他国の同年代の方々の素晴らしい発表から刺激を受けました。自分や他の方の発表において、日台韓の沢山の先生や学生の皆様と日本語・英語・中国語で交流し、活発に議論を交わすことができました。発表を応援して下さったすべての方々に感謝するとともに、今後も研究に励んでいきたいと思えます。また学会の合間には本学との協定校である台北医学大学の先生に現地の薬局見学に連れて行っていただき、台湾伝統医学の実際について理解を深めることができました。今回の学会は、「東洋医学の科学的エビデンスを見出し、主流である近代西洋医学と融合させた統合医療を推進すること」がテーマでした。台湾の伝統医学は国を挙げて継承に取り組んでおり、市民の生活にも根付いています。その様子を実際に目にしたことで、日本でも伝統医学を発展させ、統合医療を進めていくにはどうしたらよいかを考える、良いきっかけとなりました。このような貴重な機会を与えて下さいました名古屋市立大学国際学会支援事業に深く感謝致します。



令和7年度名古屋市立大学 国際学会発表等支援事業 成果報告書
【国際学会発表】

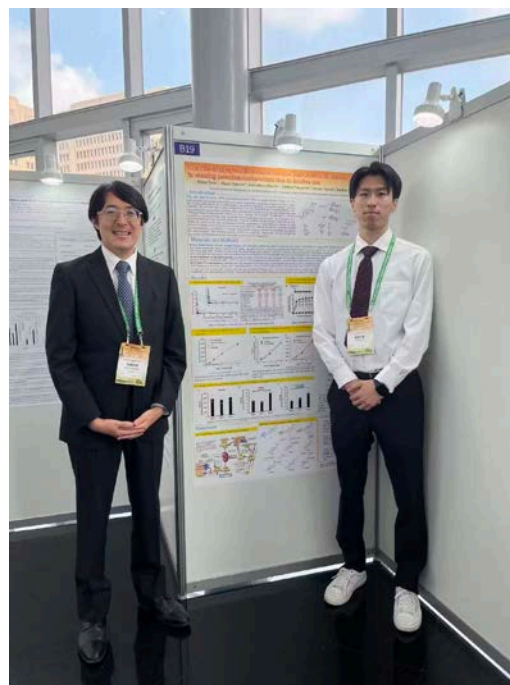
フリガナ 申請者氏名	サイトウタイタイ 西藤大慶
所 属	薬学研究科 博士前期課程 1年 (創薬生命科学専攻 生薬学分野) ※ () 内には、専攻・分野・領域・系列等を記入

国際学会の名称	20th International Congress of Oriental Medicine (第20回国際東洋医学会)
国際学会の主催者	国際東洋医学会
開催地	〈国名〉 台湾 〈都市名〉 台北
参加期間	2025年 8月 30日 ~ 2025年 8月 31日
研究発表演題	The role of glycyrrhizin metabolites and their kinetics in human in causing pseudoaldosteronism due to licorice use. 〈和訳〉 甘草使用による擬態性アルドステロン症発症におけるグリチルリチン代謝産物の役割とその動態
発表形式	1. 口頭発表 ②. ポスターセッション 3. その他 (使用言語:)

HP 掲載用報告

今回、台湾で開催された第21回国際東洋医学会

(International Congress of Oriental Medicine) に参加し、ポスター発表を行いました。日台韓の著名な先生方や東洋医学に深い関心を持つ学生の皆様と交流し、活発に議論を交わすことができました。著名な先生方の講演を拝聴し勉強になったと同時に、他国の同年代の方々の素晴らしい発表から刺激を受けました。特に、東洋医学が現在注目されていることや、日台韓での生薬の管理、使用方法の違いなどを学び、興味深く感じました。発表を応援して下さったすべての方々に感謝するとともに、今後も研究に励んでいきたいと思っております。このような機会を与えて下さいました名古屋市立大学国際学会支援事業に深く感謝致します。



令和7年度名古屋市立大学 国際学会発表等支援事業 成果報告書
【国際学会発表】

申請者氏名	ガリバゴグル ラビア Garibagaoglu Rabia
所属	薬学研究科 博士後期課程3年 (神経薬理学分野) ※ () 内には、専攻・分野・領域・系列等を記入

国際学会の名称	World Sleep 2025
国際学会の主催者	World Sleep Society
開催地	〈国名〉 Singapore 〈都市名〉 Singapore
参加期間	2025年 9月 6日 ~ 2025年 9月 10日
研究発表演題	The effect of L-alanine on sleep in <i>Drosophila melanogaster</i> ショウジョウバエにおける L-アラニンの睡眠への影響 〈和訳〉
発表形式	1. 口頭発表 ②. ポスターセッション 3. その他 (使用言語: 英語)

I had the privilege to attend World Sleep Congress. The conference was held at the Suntec City Conference and Convention Center. It was a very large and impressive venue.

The theme of the conference was sleep. There were many talks about sleep effects on different ages and on mental diseases. There were many clinicians and researchers all from various countries. Everyone was eager to connect and share their knowledge. During the opening ceremony, there was a traditional Lion Dance performance, followed by the serving of traditional tea. It was a great chance to see the culture and engage with people. It was a five-day event including course-type sessions, conference talks and workshops. Poster presentation days were for three days and each day there were more than 500 posters. I listened many researchers from around the world and had the chance to hear about their studies and also enjoyed presenting my own poster. I had the opportunity to explain my research to a diverse audience, including basic researchers, clinicians, students, and professors. It was a great opportunity to learn clinical side of the sleep studies. Additionally, big companies like Takeda and Samsung were the sponsors. There were company booths. It allowed me to test and learn some of the advanced findings. I am very glad to have joined in the conference. I made many connections, expanded my knowledge and experienced cultural exchange.



令和7年度名古屋市立大学 国際学会発表等支援事業 成果報告書
【国際学会発表】

フリガナ 申請者氏名	やまさき みおね 山崎美音
所 属	薬学研究科 博士前期課程 1年（創薬生命科学専攻） ※（ ）内には、専攻・分野・領域・系列等を記入

国際学会の名称	14th International ISSX Meeting
国際学会の主催者	International Society for the Study of Xenobiotics
開催地	〈国 名〉アメリカ 〈都市名〉シカゴ
参加期間	2025年 9月 21日 ～ 2025年 9月 24日
研究発表演題	FUNCTIONAL CHARACTERISTICS OF A NOVEL CHOLINE TRANSPORTER HIGHLY EXPRESSED IN ASTROCYTES 〈和訳〉アストロサイトで高発現する新規コリントランスポーターの機能特性
発表形式	1. 口頭発表 2. ポスターセッション 3. その他（使用言語： ）

HP 掲載用報告

14th International ISSX Meeting は、薬物動態学の幅広い分野を網羅する国際学会としてシカゴで開催されました。トランスポーターや代謝酵素、薬物動態モデル（PK/PD 解析）などをテーマとした発表が多く、最新の分析技術や *in silico* 予測モデルを応用した研究が注目を集めていました。世界各国の研究者が参加し、大学や企業、研究機関など多様な立場の研究者による活発な議論が行われ、非常に刺激的な学会でした。ポスターセッションでは、英語で研究を説明する難しさを感じながらも、多くの研究者と直接議論することで新たな視点やアイデアを得ることができました。質疑応答を通じて研究の改善点や今後の課題を明確にできたことも大きな成果でした。今回の学会参加は、国際的な研究動向を肌で感じ、自身の研究を客観的に見つめ直す貴重な機会となりました。今後は、英語による発表力をさらに磨き、今回得た知見を研究活動に活かしていきたいです。



令和7年度名古屋市立大学 国際学会発表等支援事業 成果報告書
【国際学会発表】

申請者氏名	山内 利玖
所属	薬学研究科 博士前期課程 1年 (創薬生命科学専攻・薬物動態制御学分野) ※ () 内には、専攻・分野・領域・系列等を記入

国際学会の名称	14th International ISSX Meeting
国際学会の主催者	International Society for the Study of Xenobiotics
開催地	〈国名〉 アメリカ 〈都市名〉 シカゴ
参加期間	2025年 9月 21日 ~ 2025年 9月 24日
研究発表演題	FUNCTIONAL CHARACTERISTICS OF SLC35F2 FOR THE TRANSPORT OF AMILORIDE AS A FLUORESCENT PROBE SUBSTRATE 〈和訳〉蛍光プローブ基質としての amiloride 輸送における SLC35F2 の機能特性
発表形式	1. 口頭発表 ②ポスターセッション 3. その他 (使用言語:)

HP 掲載用報告

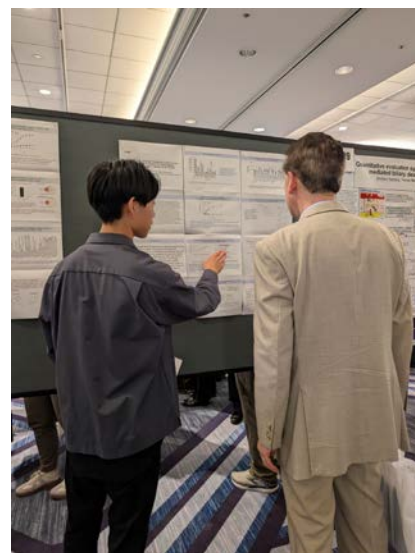
14th International ISSX Meeting には、開催国であるアメリカのみならず、多くの国々から研究者が集まり、国際的な議論が活発に交わされていた。発表内容は、薬物動態に関わる代謝酵素やトランスポーターに焦点を当てたものに加え、最新のモダリティを活用した研究も多く見られた。また、発表者は大学や研究機関にとどまらず、企業所属の研究者も多数参加しており、異なる立場・専門性を持つ参加者が最先端の知見を共有する、非常に刺激的な学会であった。

自身の研究内容に対し、国内外の多くの研究者から貴重なご意見を頂き、今後の研究に有用な情報や自身に不足している視点を把握することができた。これまで参加した学会の中でも特に参加者が多く、活発な意見交換を行えた点から、自身の薬物動態に関する知識やディスカッション能力の向上を実感した。一方で、考察の深さや幅広い分野における知識不足など自らの課題を再認識する機会ともなり、今後も継続的に自己研鑽を重ねていく必要性を感じた。

また、国際学会であったため英語でのディスカッションが中心であり、伝えたい内容を十分に表現できないもどかしさや、相手の意図を正確に理解する難しさを痛感した。

今回の学会参加を通じて、薬物動態に関する知見を深めるとともに、英語運用能力の向上の必要性を再認識するなど、今後の研究活動や自身の成長につながる大変有意義な経験となった。

国際学会での発表に加え、海外渡航も初めての経験であったため、当初は大きな緊張を感じていた。事前に入念な準備を重ねていたこ



とから、発表自体は滞りなく進めることができたものの、当日は英語でのコミュニケーションに苦戦し、思うように意見交換ができない場面もあり、悔しさを感じた。一方で、自身の知らなかった新たな知見を得られたり、英語での発言が相手に伝わった瞬間には大きな達成感と喜びを感じた。

発表以外にも、レセプションやランチョンセミナーなど参加者同士が交流できる機会が多く、英語を通じて積極的に意見交換を行う経験は非常に刺激的であった。普段の研究生活では得がたい国際的な視点や考え方に触れることができ、貴重な学びとなった。

今回の経験を通じて、自身の課題に真摯に向き合う姿勢の重要性を改めて認識した。今後も機会があれば国際学会に参加し、より高い英語運用能力と発信力を身につけ、今回以上に実りある発表にしたいと考えている。

令和7年度名古屋市立大学 国際学会発表等支援事業 成果報告書
【国際学会発表】

申請者氏名	清水 千里
所 属	人間文化研究科 博士後期課程 2年 (保育学) ※ () 内には、専攻・分野・領域・系列等を記入

国際学会の名称	International Association of Early Childhood Education (国際幼児教育学会)
国際学会の主催者	福井 逸子
開催地	〈国 名〉アメリカ合衆国 〈都市名〉ロサンゼルス
参加期間	2025年 9月 18日 ~ 2025年 9月 20日
研究発表演題	Work Environment Affecting Participation in Off-site Training for Nursery Teachers 〈和訳〉労働環境が保育士の園外研修参加に与える影響
発表形式	1. 口頭発表 2. ポスターセッション 3. その他 (使用言語:)

<p>HP 掲載用報告</p> <p>□ 学会のテーマ・様子</p> <p>保育・幼児教育分野の国際的な発表、交流の場であった。</p> <p>学会の内容は発表のみではなくアメリカの幼児教育施設の見学も含まれ、他国の施設を実際に目にするのできる貴重な機会となった。学会には現地の学生も参加しており、国際間交流も行うことができた。</p> <p>□ 研究発表内容</p> <p>保育士の労働環境及び働き方が園外研修の参加へどのように影響を与えるか、日本の保育所において質問紙調査を行い、分析の結果を報告した。</p> <p>先行研究に基づき同僚の園外研修への意識、職場の位置、本人の園外研修への意識に着目して分析を行った結果、同僚の意識と本人の意識が園外研修への参加に影響を与えることが示唆された。同僚による園外研修の情報共有、本人の葛藤解決意識が園外研修への参加にポジティブな影響を与えることが考えられる。一方、オンライン研修が充実したことにより、職場の位置の影響は小さくなったことが推測される。</p> <p>□ 成果</p> <p>日本国内における園外研修に関する研究は現時点で数が少なく、本研究によって、職場環境が園外研修への参加に影響を与える点が明らかになったことは成果といえる。</p> <p>また本調査では、オンラインによる研修の活用が研修参加意識へポジティブな影響を与えていた点について明らかになり、今後の研修の開催方法への示唆となったことが考えられる。</p>
--



□ 感想

国際学会での発表及びアメリカへの渡航は初めての経験であったため不安や緊張も大きかったが、ロサンゼルスでは学会内外ともに好意的に接して下さることが多く滞在をととても楽しむことができた。

学会発表前日に行われた現地幼児教育施設のツアーでは、アメリカで行われている保育内容を実際に見ることで大変勉強になった。また現地の先生と話をする機会もあり、その熱心さに刺激を受けた。

ロサンゼルスは非常に広く徒歩での移動が困難で、移動に **Uber Taxi** を使うことも多かった。その際にドライバーと話すことが予想以上に楽しく、また英語力の不足を痛感する機会にもなった。学会参加に伴いコミュニケーションの楽しさや難しさを味わったことで、英語学習の意欲をより高めることができたと感じている。

今後に活かせる貴重な機会を得られた。大学からご支援をいただいたことに心から感謝している。

令和7年度名古屋市立大学 国際学会発表等支援事業 成果報告書
【国際学会発表】

フリガナ 申請者氏名	タシマ ルキ 田島 瑠姫
所 属	人間文化 研究科 博士前期 課程 2年 (社会と教育) ※ () 内には、専攻・分野・領域・系列等を記入

国際学会の名称	国際幼児教育学会
国際学会の主催者	Patricia Doelitzsch
開催地	〈国 名〉 アメリカ 〈都市名〉 ロサンゼルス
参加期間	2025年 9 月 18 日 ～ 2025 年 9 月 20 日
研究発表演題	How Daycare Teachers Support the Parents of Children with Disabilities? : An Analysis Focusing on Conversations Between the Two 〈和訳〉療育保育者による保護者支援の研究 : 保育者と保護者の会話に着目して
発表形式	①. 口頭発表 2. ポスターセッション 3. その他(使用言語:)

HP 掲載用報告

アメリカ・ロサンゼルスピアスカレッジで行われた第46回国際幼児教育学会に参加し、口頭発表を行いました。私は、現在修士論文として執筆している、保育者による障害のある子どもの保護者への支援に関する研究を発表しました。発表やその後の参加者の方との意見交流を通して、論文中の説明の不十分な箇所に気づくことができただけでなく、自分の見えていなかった考察や、より理論的な研究にするための方法など、一人では気づくことのなかった多くのことを知ることができました。

また、園見学を通して、保育・幼児教育に関する知識を深めることができました。今後の自分の研究や、子どもとの関わりに活かしていきたいです。大会参加を支えてくださった多くの方々に感謝の気持ちでいっぱいです。参加を通して、本当に様々なことを学ぶことができました。



令和7年度名古屋市立大学 国際学会発表等支援事業 成果報告書
【国際学会発表】

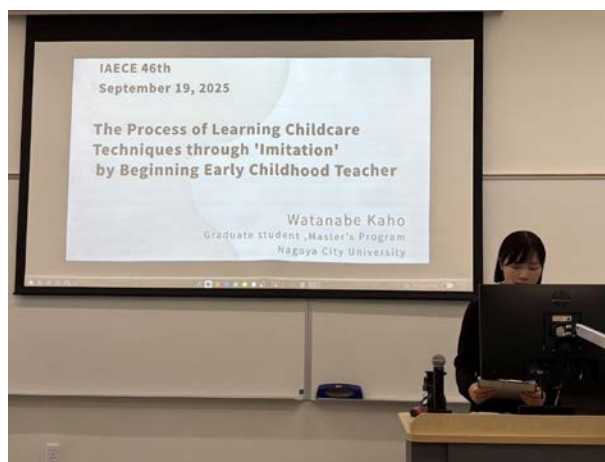
申請者氏名 フリガナ	ワタナベ カホ 渡邊 華穂
所属	人間文化研究科 博士前期課程 1年（ 社会と教育 ） ※（ ）内には、専攻・分野・領域・系列等を記入

国際学会の名称	国際幼児教育学会
国際学会の主催者	Patricia Doelitzsch
開催地	〈国名〉 アメリカ 〈都市名〉 ロサンゼルス
参加期間	2025年 9月 19日 ～ 2025年 9月 20日
研究発表演題	〈和訳〉 模倣を経た初任保育者の保育技術学習プロセス
発表形式	①. 口頭発表 2. ポスターセッション 3. その他（使用言語： ）

HP 掲載用報告

アメリカ・ロサンゼルスにて開催された第46回国際幼児教育学会に参加しました。会場であるPierce 大学敷地内には、現地の子どもたちが通園する Child Development Center が併設されており、今回の学会ではその施設も会場の一部となっていました。大会前日には施設の見学もさせていただき、実際の保育の様子や保育環境を見せていただくこともできました。また、大会期間中は現地の保育者の先生もいらっしやったので、施設で行われている保育実践について教えていただき、現地における実践や現地の先生方の熱量を肌で感じる機会となりました。

口頭発表では、「模倣による初任保育者の保育技術学習プロセス」の題目について15分間の発表を行い、今後の研究において重要なご指摘をいただくことができました。ただ、大会中は英語力不足のために理解できないことが多々あったため、今後は自信をもって発表やディスカッションに臨めるよう、英語力の向上にも努めたいと思います。今回の経験を糧に、幼児教育の発展に少しでも貢献できるよう、研究を深めていきたいと思っています。



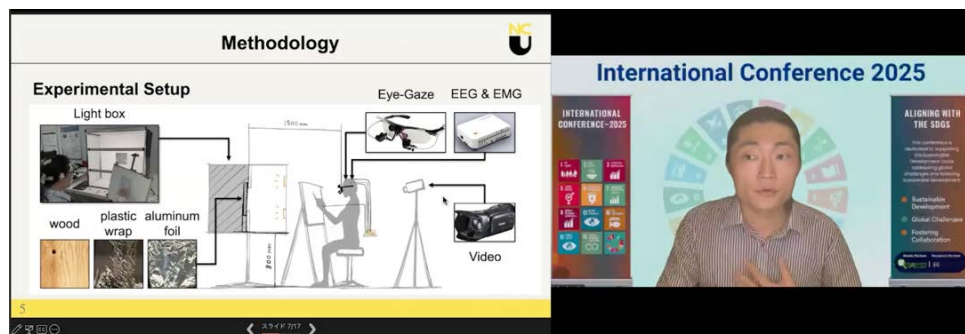
令和7年度名古屋市立大学 国際学会発表等支援事業 成果報告書
【国際学会発表】

申請者氏名	フリガナ 金 承 範
所 属	芸術工学研究科 博士前期課程 2年 (情報環境デザイン領域) ※ () 内には、専攻・分野・領域・系列等を記入

国際学会の名称	International Conference on Multidisciplinary Scientific Social Sciences and Arts (ICMSSSA-25)
国際学会の主催者	Science Net
開催地	〈国 名〉 デンマーク 〈都市名〉 コペンハーゲン
参加期間	2025年 7月 3日
研究発表演題	Multimodal Biometric Analysis of Texture Depiction in Pencil Drawing: Toward a Quantitative Framework for Art Education 〈和訳〉 鉛筆デッサンの質感描写におけるマルチモーダル生体情報分析 : 芸術教育のための定量的枠組みに向けて
発表形式	1. 口頭発表 2. ポスターセッション 3. その他 (使用言語:)

HP 掲載用報告

「Multimodal Biometric Analysis of Texture Depiction in Pencil Drawing: Toward a Foundation for Science-based Art Education (鉛筆による質感描写におけるマルチモーダル生体情報解析: 科学的美術教育の基盤構築に向けて)」と題して、持続可能な開発目標 (SDGs) に沿った研究・イノベーションの共有と学際的課題解決の促進を目的とする国際学会にて発表を行った。芸術大学生による異素材描写を対象に、脳波 (EEG)、筋電 (EMG)、視線計測を同時記録し、素材条件間の脳活動差を検討した。その結果、素材の違いによる顕著な変化は見られなかったが、側頭葉・頭頂葉で特徴的活動が確認され、描画過程における注意や空間認知との関連が示唆された。学会では多様な分野の研究者と交流し、異なる視点や手法に触れることで、学際的連携の意義を再認識した。一方で、分野横断型の学会は概念的示唆を得やすい反面、専門的分析手法に関する具体的助言は限られることも実感した。今後は、本発表で得た知見や国際ネットワークを基盤に、より専門性の高い学会での発表を目指し、研究の深化に取り組む予定である。



研究成果発表の様子

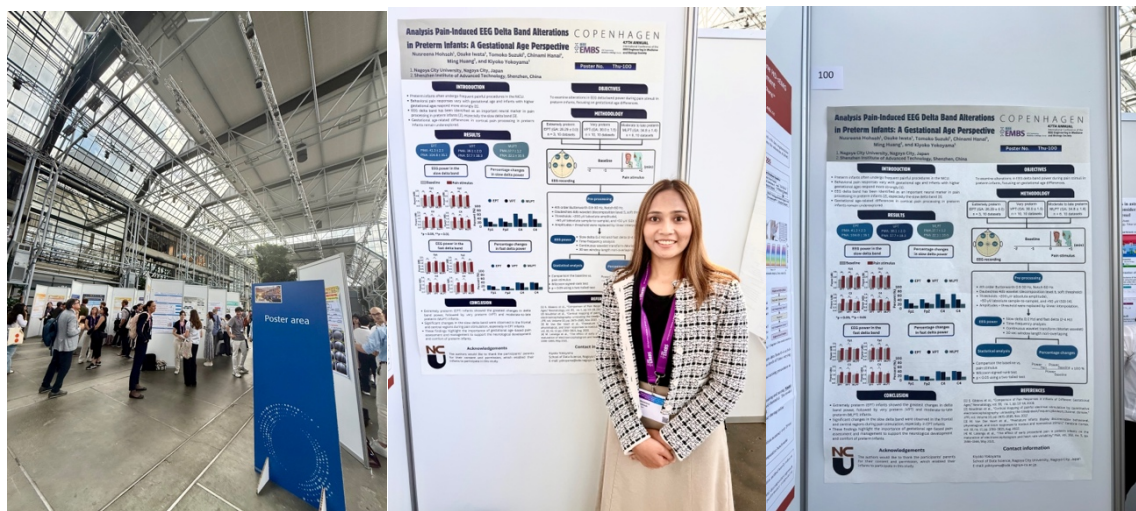
令和7年度名古屋市立大学 国際学会発表等支援事業 成果報告書
【国際学会発表】

フリガナ 申請者氏名	ホソノヌスリナ HOHSOH Nusreena
所属	Graduate School of Design and Architecture 研究科 Doctoral course 課程 2年 (Informatics and Media Design) ※ () 内には、専攻・分野・領域・系列等を記入

国際学会の名称	47 th Annual International Conference of the IEEE Engineering in Medicine and Biology Society
国際学会の主催者	IEEE Engineering in Medicine and Biology Society
開催地	〈国名〉 Denmark 〈都市名〉 Copenhagen
参加期間	2025年 7月 14日 ~ 2025年 7月 17日
研究発表演題	Analysis Pain-Induced EEG Delta Band Alterations in Preterm Infants: A Gestational Age Perspective 〈和訳〉 早産児における疼痛誘発時の脳波デルタ波の変動の解析：在胎週数の観点から
発表形式	1. 口頭発表 2. ポスターセッション 3. その他（使用言語： ）

HP 掲載用報告

At the 2025 IEEE EMBC held in Copenhagen, Denmark (14-17 July), I presented a poster on the analysis of EEG delta band changes in preterm infants during painful stimuli, with an emphasis on gestational age. The study revealed significant alterations in EEG activity during pain, especially in extremely preterm infants, providing evidence for EEG-based pain monitoring in neonatal care. Participating in this international conference allowed me to engage with a global community of researchers and expand my academic network. The feedback I received will greatly contribute to the development of our future collaborative publication.



令和7年度名古屋市立大学 国際学会発表等支援事業 成果報告書
【国際学会発表】

申請者氏名	高橋 奈里
所属	芸術工学研究科 博士後期課程 1年 (芸術工学専攻) ※ () 内には、専攻・分野・領域・系列等を記入

国際学会の名称	38th InSEA World Congress (国際美術教育学会)
国際学会の主催者	Petra Šobáňová, Jana Jiroutová
開催地	〈国名〉 チェコ 〈都市名〉 オロモウツ
参加期間	2025年 7月 21日 ~ 2025年 7月 25日
研究発表演題	Examining the Importance of Cognitive Diversity and Inclusive Approaches in Art Education Through the Aphantasia Spectrum 〈和訳〉アファンタジアを通じた、芸術教育における認知的多様性とインクルーシブなアプローチの重要性の検討
発表形式	① 口頭発表 2. ポスターセッション 3. その他(使用言語:)

<p>HP 掲載用報告</p> <p>研究発表報告</p> <p>□ 学会のテーマ・様子</p> <p>InSEA では、気軽に話題を共有できる雰囲気があった。また、科学の文脈で一般的に行われる統計を用いた実験とは異なる手法でのアプローチが多く、非常に新鮮に感じた。さらに、各国の調査結果からは、考え方や教育方法の違いをはじめとした文化的差異の影響がうかがえ、大変勉強になった。日本が他国から取り入れるべき美術教育の考え方(またその逆)について、自分なりに考察する貴重な機会となった。</p> <p>□ 研究発表内容</p> <p>本研究は、「アファンタジア」と呼ばれる、視覚的なイメージが浮かびにくい認知特性を持つ人々に対し、美術教育においてどのような支援が可能かを提案することを目的としている。今回は、VVIQ という、視覚的イメージの鮮明さを測定する質問紙の調査結果をもとに、アファンタジア傾向の低い人から高い人まで幅広く対象とし、さまざまな特性を測る調査や描画課題を実施した。</p> <p>□ 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Psi-Q: 各感覚モダリティにおけるイメージ想起のしやすさを測定する質問紙 → 参加者ごとに得意・不得意な感覚モダリティが異なり多様性がある ・ ICAA-J: 美術制作における自信度を測定する質問紙 → アファンタジア傾向が高い人ほど美術活動に対する自信度が低い ・ MTCI: 描画活動により創造性を測る課題 → アファンタジア傾向にかかわらず創造力は同程度だが、傾向の高い人は低い人の約2倍の描画時間を要した

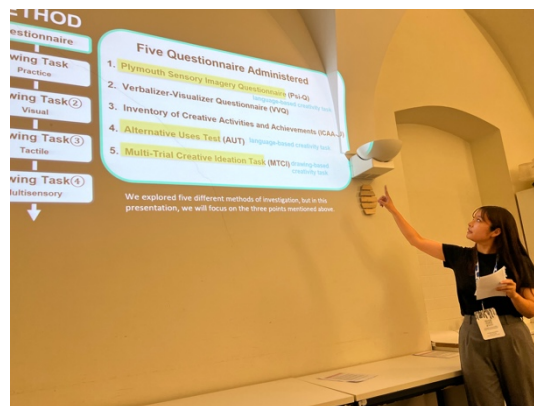
- 描画課題：各テーマに応じて絵を描画してもらう課題

- アファンタジア傾向の高い人について、得意な感覚モダリティの想起を促す声かけや活動が、視覚的なイメージ形成の手がかりとなる

- 展望として、画像生成 AI を活用することで視覚的なイメージ想起をさらに支援できる可能性がある

- 感想

初めての国際学会であり、非常に緊張したが、伝える意識を持ち、丁寧にゆっくり話すことを心がけ、無事発表を終えることができた。今後も、積極的に国際学会へ参加することで、国内にとどまらないコミュニティの形成や知識の構築を目指したい。引き続き、英語力の向上を目指し、学内でも留学生との会話などを通じて、英語活動を継続していきたい。



令和7年度名古屋市立大学 国際学会発表等支援事業 成果報告書
【共同研究・研究指導】

申請者氏名	アフマド ナディル エダー アリフィン Ahmad Nadhil Edar Arifin
所 属	Nagoya City University 研究科 Design and Architecture 課程 年 (2nd Year) ※ () 内には、専攻・分野・領域・系列等を記入

受入大学	Universitas Muslim Indonesia
大学の所在国	〈国 名〉 Head of Architecture Department
研究課題	〈和訳〉 Study on Advanced HVAC Systems for Tropical Shopping Mall: Case Study: Makassar, Indonesia
現地滞在期間	2025 年 08 月 14 日 ~ 2025 年 09 月 16 日

<p>HP 掲載用報告</p> <p>After I got to Indonesia, I spent two weeks doing preliminary work with Universitas Muslim Indonesia (UMI). During this time, I met with Dr. Ir. H. Ansarullah F, ST., MT., IPM., ASEAN Eng., Head of the Architecture Department, and his research team to finalize the research protocol and survey methodology. We conducted detailed planning sessions to determine the optimal sensor placement locations and survey timing to capture representative data.</p> <p>As part of the preparation, I had the opportunity to visit UMI's engineering laboratory for Architecture Department to understand their capabilities and discuss technical aspects of the equipment we would use. The UMI team provided valuable local insights about MARI Mall's operational patterns and climate considerations that informed our research design. This collaborative preparation was essential for ensuring our fieldwork would yield meaningful data for evaluating advanced HVAC systems in Eastern Indonesia's unique tropical context.</p> <p>I did a full survey and sensory measurement study at MARI Mall in Makassar, Indonesia, during four days plus 1 day before as a trial test for all devices and see the condition. (August 28 to September 1, 2025). This fieldwork was part of my joint international research with Universitas Muslim Indonesia to understand the current thermal conditions in tropical shopping malls. So, during this activity, me and UMI's team worked together in the field.</p> <p>For the survey, I collected responses from 268 visitors across all four days (60-72 visitors per day). Each visitor completed a structured questionnaire that assessed their temperature and humidity sensations using a 7-point scale, their satisfaction with thermal conditions, and demographic information including age, gender, visit frequency, and spending behavior. The survey specifically targeted visitors during peak mall hours (10:00-18:00) to capture the most representative visitor experiences.</p> <p>I set up seven sensor units in five important places for the sensory measurements: three entrances, one corridor region, and one external reference point. Using TR-76Ui and TR-74Ui devices, I recorded temperature, humidity, and CO₂ levels at 10-minute intervals throughout the mall's operating hours (10:00-22:00). This resulted in 1,920 hours of detailed environmental data that was precisely time-stamped to match with survey responses.</p>
--

I organized the data collection very carefully so that I could get information about both workday (Friday, Monday) and weekend (Saturday, Sunday) conditions. This let me see how thermal conditions and visitor comfort change with different traffic patterns. Each day followed a structured schedule: 10:00–14:00 for morning measurements, 14:00–18:00 for peak comfort period (when thermal discomfort is most critical), and 18:00–22:00 for evening patterns. This comprehensive approach provided the baseline data needed to evaluate the performance of conventional and advanced HVAC systems in tropical conditions.

Meanwhile, during the fieldwork period, I conducted also structured interviews with the Mall Ratu Indah (MARI Mall) management team and engineering staff to gain deeper insights into the conventional HVAC system operations. The mall manager provided valuable operational data, including the mall's daily visitor traffic patterns (averaging 14,430 visitors), energy consumption figures (4,330,000 VA/month), and operational hours, while the chief engineer explained the current single-coil AHU system's technical specifications (SHF=0.64) and maintenance challenges. This information was critical for contextualizing our sensor measurements and visitor survey results, particularly in understanding the system's limitations in maintaining optimal temperature (21.8–24.9° C) and humidity (54.3–68.5% RH) levels that directly impact visitor comfort and energy efficiency. The manager's confirmation that "overcooling is standard practice" in Indonesian malls (maintaining 22° C despite local thermal preferences of 26.5–27.5° C) provided essential context for our findings on energy waste and visitor dissatisfaction, directly supporting our research objective to evaluate advanced HVAC systems for tropical shopping environments.

Upon completion of the survey and sensory measurements, Universitas Muslim Indonesia formally recognized our collaborative research effort. Dr. Ir. H. Ansarullah F, ST., MT., IPM., ASEAN Eng., Head of Architecture Department at UMI, presented me with an official Certificate of Joint International Research Partnership. This certificate acknowledged the successful implementation of our joint research and documented UMI's contribution as the host institution for the fieldwork at MARI Mall. This formal recognition not only validates the legitimacy of our research collaboration but also strengthens the foundation for future research partnerships between Nagoya City University and Universitas Muslim Indonesia in the field of sustainable building design for tropical climates.



令和7年度名古屋市立大学 国際学会発表等支援事業 成果報告書
【共同研究・研究指導】

フリガナ 申請者氏名	イマイ トモヤ 今井 友也
所 属	理学研究科 博士後期課程 2年（理学情報専攻） ※（ ）内には、専攻・分野・領域・系列等を記入

受入大学	Scripps 研究所
大学の所在国	〈国 名〉アメリカ
研究課題	Development of Novel Redox Reactions Driven by Electrochemistry 〈和訳〉電気化学に基づく新規レドックス反応の開発
現地滞在期間	2025年 12月 5日 ～ 2026年 3月 22日

HP 掲載用報告

私は3カ月半の間、アメリカ・Scripps 研究所の Phil S. Baran 教授が主宰する研究室において、有機電解合成反応を駆使した反応開発に従事しました。滞在中はこれまでに取り組んだことのなかった電気化学的アプローチについて、実践的に学ぶことができました。また、Baran 研究室は高い研究生産性を誇っており、研究を統括するグループリーダーや、世界各国から集まった優秀な博士研究員、学生とのディスカッションを重ねることで、質の高い研究を生み出すための研究の進め方や考え方を学ぶことができました。これらの経験を、今後の日本での研究活動に活かしていきたいと思っております。最後になりましたが、今回の渡航に際し、ご支援を賜った名古屋市立大学国際発表支援事業に感謝を申し上げます。



Baran 教授との写真

令和7年度名古屋市立大学 国際学会発表等支援事業 成果報告書
【国際学会発表】

申請者氏名	アリエル ファディラ ARRIEL FADHILAH
所属	理学研究科 博士後期課程 1年（生命情報） ※（ ）内には、専攻・分野・領域・系列等を記入

国際学会の名称	International Conference of Water Resources Development and Environmental Protection (ICWRDEP) 2025
国際学会の主催者	Brawijaya 大学
開催地	〈国名〉 インドネシア 〈都市名〉 Malang
参加期間	2025年9月27日 ～ 2025年9月28日
研究発表演題	Revealing microplastic pollution hotspots in Indonesia freshwaters: a synthesis of methodological biases, anthropogenic drivers, and predictive hotspot mapping 〈和訳〉 インドネシア淡水域におけるマイクロプラスチック汚染ホットスポットの解明：方法論的バイアス、人為的要因、予測的ホットスポットマッピングの統合
発表形式	1. 口頭発表 2. ポスターセッション 3. その他（使用言語：英語）

HP 掲載用報告

□ 学会のテーマ・様子

2025年9月27日～28日に、インドネシアのブラウィジャヤ大学（Universitas Brawijaya）にて開催された “International Conference of Water Resources Development and Environmental Protection (ICWRDEP)” に参加しました。

本学会は「環境」や「水資源・水質保全」を主要テーマとし、学生・研究者のみならず、政府関係者や企業関係者など多様な参加者によって活発な議論が交わされました。分野横断的な交流を通じて、最新の知見や実務的な課題への理解を深める貴重な機会となりました。



□ 研究発表内容

水環境の新たな汚染物質として注目を集めている マイクロプラスチック は、近年水環境汚染の “*Rising Star*” として研究が急速に進展しています。しかし、研究において以下の2つの大きな課題が存在する：

1. メソッドの不一致 → *inconsistency*
2. 地理的にも学術的にも十分に拡張・共有されていない現状 → *unpopular*

これらの課題を踏まえ、我々はインドネシア全国の淡水域におけるマイクロプラスチック汚染を予測す

る アプリ を開発した。

□ 成果

本研究の成果は ICWRDEP 国際学会において Best Paper Award を受賞しました。

また、国際学会という場を通じて、大学関係者のみならず、政府関係者や企業関係者など幅広い層の参加者に対し、インドネシアにおけるマイクロプラスチック汚染の実態およびその予測モデルを紹介することができた。



□ 国際共著論文の見通し

本研究は、名古屋市立大学(日本)、Universitas Brawijaya (インドネシア)、Institut Teknologi Bandung (インドネシア) との国際共同研究として実施されました。今後は本成果を基に、IOP Publishing へのフルペーパー投稿を予定しています。

□ 感想

本学会では、研究者だけでなく、行政や企業関係者とも意見を交わすことができ、研究の社会的な側面について多くの気づきを得ることができました。さらに、新たな国際共同研究へと発展する可能性のある出会いやネットワークを築くことができ、大変有意義な機会となりました。

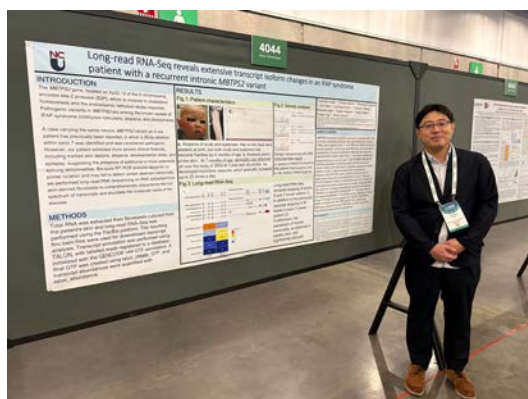
令和7年度名古屋市立大学 国際学会発表等支援事業 成果報告書
【国際学会発表】

フリガナ 申請者氏名	いわきとしひこ 岩城 利彦
所 属	医学研究科 博士課程4年（生体情報・機能制御医学専攻新生児小児医学分野） ※（ ）内には、専攻・分野・領域・系列等を記入

国際学会の名称	ASHG 2025 Annual Meeting
国際学会の主催者	American Society of Human Genetics
開催地	〈国 名〉 アメリカ合衆国 〈都市名〉 ボストン
参加期間	2025年 10月 14日 ～ 2025年 10月 17日
研究発表演題	Long-read RNA-Seq reveals extensive transcript isoform changes in an IFAP syndrome patient with a recurrent intronic MBTPS2 variant 〈和訳〉 ロングリード RNA-Seq により、再発性イントロン MBTPS2 変異を有する IFAP 症候群患者における広範な転写アイソフォームの変化が明らかになった。
発表形式	1. 口頭発表 2. ポスターセッション 3. その他（使用言語： ）

HP 掲載用報告

今回はアメリカのマサチューセッツ州ボストンで開催されたアメリカ人類遺伝学会に参加させて頂きました。今回ポスター発表でしたが複数の研究者から質問して頂き、英語でプレゼンテーションをするという貴重な経験をすることが出来ました。また他の研究者のポスター発表を見たり、講演を聴くことで最先端の知見を得ることが出来ました。このような機会を与えて支援をいただきました名古屋市立大学国際学会発表等支援事業に深く感謝致します。



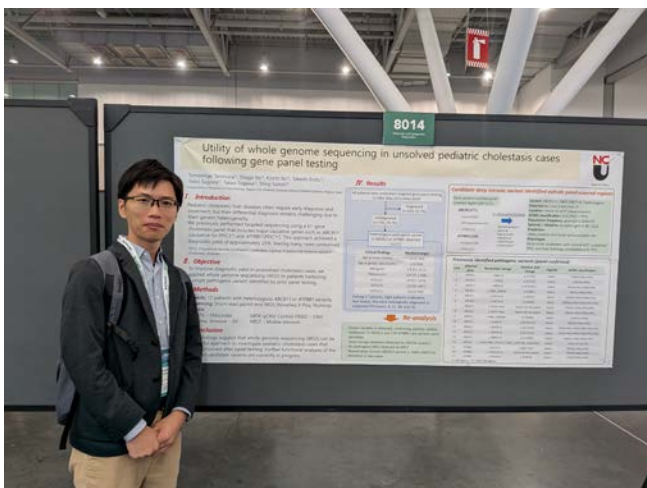
令和7年度名古屋市立大学 国際学会発表等支援事業 成果報告書
【国際学会発表】

フリガナ 申請者氏名	タニムラ トモシゲ 谷村 知繁
所 属	医学研究科 博士課程 3年（生体情報・機能制御医学専攻 新生児・小児医学分野） ※（ ）内には、専攻・分野・領域・系列等を記入

国際学会の名称	American Society of Human Genetics annual meeting 2025
国際学会の主催者	American Society of Human Genetics
開催地	〈国 名〉 U.S.A. 〈都市名〉 Boston
参加期間	2025年 10月 14日 ～ 2025年 10月 17日
研究発表演題	Utility of whole genome sequencing in unsolved pediatric cholestasis cases following gene panel testing 〈和訳〉 小児胆汁うっ滞症に対する全ゲノム解析の有用性
発表形式	1. 口頭発表 ② ポスターセッション 3. その他（使用言語： ）

HP 掲載用報告

この度、アメリカのボストンで開催された American Society of Human Genetics annual meeting 2025 に参加、ポスター発表をしてまいりました。世界で最も大規模な人類遺伝の学会に参加することで最先端の知見が得られ、ポスター発表では英語での議論を経験することもできました。非常に得難い貴重な経験ができ、今後の研究や自己研鑽に生かしていきたいと思っております。研究をご指導いただきました先生方、ご支援を賜りました皆様方に心より御礼申し上げます。



令和7年度名古屋市立大学 国際学会発表等支援事業 成果報告書
【国際学会発表】

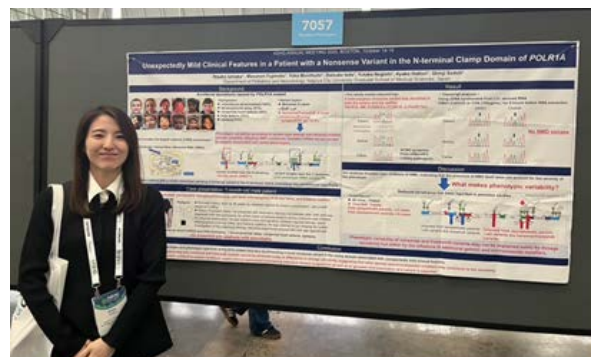
フリガナ 申請者氏名	イシオカリサコ 石岡梨紗子
所 属	医学研究科 博士課程1年（生体情報機能制御医学専攻 新生児・小児医学分野）

国際学会の名称	American Society of Human Genetics annual meeting 2025
国際学会の主催者	American Society of Human Genetics
開催地	〈国 名〉 アメリカ 〈都市名〉 ボストン
参加期間	2025年 10月 14日 ～ 2025年 10月 18日
研究発表演題	Unexpectedly Mild Clinical Features in a Patient with a Nonsense Variant in the N-terminal Clamp Domain of POLR1A 〈和訳〉「POLR1AのN末端クランプドメインにナンセンス変異を持つものの、臨床的に軽度な表現型であった一例」
発表形式	1. 口頭発表 ②ポスターセッション 3. その他（使用言語：）

HP 掲載用報告

American Society of Human Genetics annual meeting は、人類遺伝学およびゲノム研究における世界最大規模の国際学会であり、世界各国から8000人以上の参加者が集ります。ポスター発表であったにもかかわらず、多くの質問をいただき、海外では議論が非常に活発であることを実感しました。今回はPOLR1Aについての発表でしたが、海外のPOLR2AやPOLR3Aの研究者から分子病態や表現型、その違いに関する質問を受けたことで、RNAポリメラーゼ間の共通点や相違点の視点から新たな知見が得られる可能性を感じました。

初の国際学会参加でしたが、その規模は国内学会とは比べ物ならず、発表が与えるインパクトは非常に大きいであろうことを感じました。自分の研究内容を世界に発信していくことの有用性を改めて感じ、研究により一層精進するとともに、コミュニケーションツールとしての英語の能力も高める必要があると痛感しました。



令和7年度名古屋市立大学 国際学会発表等支援事業 成果報告書
【国際学会発表】

申請者氏名	野田 みすず
所属	医学研究科 博士課程 2年（生体防御・総合医学専攻 臨床薬剤学分野） ※（ ）内には、専攻・分野・領域・系列等を記入

国際学会の名称	The 19 th Pan-Pacific Continenence Society (PPCS) Annual Meeting
国際学会の主催者	Pan-Pacific Continenence Society
開催地	〈国名〉中国 〈都市名〉上海
参加期間	2025年 10月 18日 ～ 2025年 10月 19日
研究発表演題	The accessory nerve from major pelvic ganglion involves the regulation of the bladder contraction in rats 〈和訳〉ラット骨盤神経叢から延びる accessory nerve は膀胱収縮の制御に関与する
発表形式	1. 口頭発表 2. ポスターセッション 3. その他（使用言語：英語）

HP 掲載用報告

10月18日から19日にかけて開催された The 19th Pan-Pacific Continenence Society (PPCS) Annual Meeting にて「The accessory nerve from major pelvic ganglion involves the regulation of the bladder contraction in rats」というテーマで発表をして参りました。本研究ではラットの骨盤内に存在する accessory nerve という詳細の明らかになっていない神経が、膀胱の収縮に直接関与していることを示しました。質疑応答を通じて、高等動物への応用も含めた研究の発展性について改めて考えることができました。また、排尿研究領域における最新の知見に触れることもでき、研究の位置づけを再認識することができました。本学会での発表は、今後の研究を進展させる上で大変貴重な経験となったと感じています。



令和7年度名古屋市立大学 国際学会発表等支援事業 成果報告書
【国際学会発表】

申請者氏名	萩田 圭紀
所属	医学研究科 博士課程 1年（生体防御・総合医学専攻、臨床薬理学分野） ※（ ）内には、専攻・分野・領域・系列等を記入

国際学会の名称	The 19 th Pan Pacific Continence Society (PPCS2025)
国際学会の主催者	Pan-Pacific Continence Society (PPCS), Chinese Aging Well Association (CAWA)
開催地	〈国名〉中国 〈都市名〉上海
参加期間	2025年 10月 18日 ～ 2025年 10月 19日
研究発表演題	Construction of an umbrella cell-deficient rat model and examination of the role of umbrella cells in bladder function 〈和訳〉アンブレラ細胞欠損ラットモデルの構築と膀胱機能におけるアンブレラ細胞の役割の検討
発表形式	1. 口頭発表 ② ポスターセッション 3. その他（使用言語：英語）

HP 掲載用報告

□ 学会のテーマ・様子

今回、中国・上海で行われた The 19th Pan Pacific Continence Society (PPCS2025) に参加しました。この学会は、日本、韓国、台湾、中国、オーストラリア、ニュージーランド、インドネシアのアジア・オセアニア地域の研究者が集う排尿機能に関する国際学会です。本学会では、前立腺肥大症、過活動膀胱、神経因性膀胱、間質性膀胱炎・膀胱痛症候群などの下部尿路機能障害に関する最新の知見や研究動向、症例報告、診断および治療技術の開発など多岐にわたる内容が報告されました。また、各疾患におけるこれまでの研究や治療の変遷についても包括的にまとめられており下部尿路機能障害の治療の進展と変化を体系的に学ぶことができる貴重な機会となりました。



□ 研究発表内容

膀胱の内腔は膀胱尿路上皮で覆われており、アンブレラ細胞は膀胱尿路上皮の最表層に位置する細胞です。未だアンブレラ細胞層のみを剥離した動物モデルは確立されておらず、膀胱機能におけるアンブレラ細胞の役割は十分に解明されていません。本学会では、膀胱アンブレラ細胞欠損ラットモデルの構築と本動物モデルを用いて膀胱機能におけるアンブレラ細胞の役割を検討した研究について報告しました。発表は Moderated Poster 形式で実施され、ポスターの掲示に加えてスライドを用いた4分間の

口頭発表を行いました。

□ 成果

本学会では、初めてのポスター作成および英語による口頭発表を経験しました。発表時間は4分間と限られていましたが、研究の背景、目的、方法、結果、考察を簡潔かつ明瞭に伝える必要がありました。発表準備の過程および本番での実践を通じて、英語での専門用語の使い方や論理的構成力を向上させることができました。発表後には、座長および他の研究者との質疑応答やディスカッションを通じて、研究内容に対する多角的な視点や建設的な意見を得る貴重な機会となりました。特に、国際的な研究者との交流を通じて、自身の研究の位置づけを再認識することができました。

□ 感想

今回の学会は、私にとって初めての国際学会への参加となりました。日々の研究活動と並行してポスターおよび発表スライドの作成、発表原稿の準備、発表練習を重ねることは容易ではありませんでしたが、自身のスキルを高める貴重な機会となりました。発表後にはアジア圏の若手研究者から質問を受ける場面がありました。英語が母語ではない者同士のコミュニケーションにおいて、互いの意図を正確にくみ取ることに苦勞し、英語で自分の考えを明確に伝える難しさを実感しました。この経験を通じて、科学的な英語表現力や質疑応答における対応力のさらなる向上が必要であると痛感しました。今後は、国際的な研究者との交流の機会に備え、英語での質問対に加えて、積極的に質問を行えるような科学的コミュニケーション能力を養っていきたいと考えています。

本学会で得られた経験や刺激を糧に、これからの研究にも前向きに取り組んでいきたいと思えます。研究をご指導いただいた先生方、今回の学会参加に際してご協力・ご支援いただいた皆様に心より御礼申し上げます。

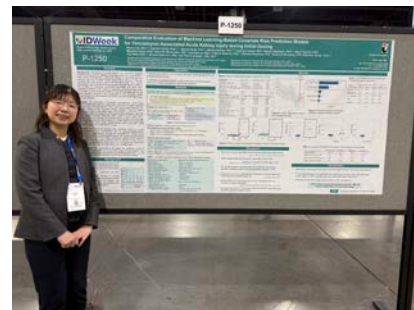
令和7年度名古屋市立大学 国際学会発表等支援事業 成果報告書
【国際学会発表】

申請者氏名	飯田 萌子		
所属	医学研究科	博士課程	3年（臨床薬学分野） ※（ ）内には、専攻・分野・領域・系列等を記入

国際学会の名称	IDWeek2025
国際学会の主催者	Yohei Doi, MD, PhD, ID Week Chair, IDSA
開催地	〈国名〉 アメリカ 〈都市名〉 アトランタ
参加期間	2025年 10月 19日 ～ 2025年 10月 22日
研究発表演題	Comparative Evaluation of Machine Learning-Based Covariate Risk Prediction Models for Vancomycin-Associated Acute Kidney Injury during Initial Dosing 〈和訳〉バンコマイシン初期投与時における急性腎障害リスク予測のための機械学習モデルの比較評価
発表形式	1. 口頭発表 ② ポスターセッション 3. その他（使用言語： ）

HP 掲載用報告

10月19～22日にアメリカ・アトランタで開催されたIDWeekに参加し、バンコマイシン関連急性腎障害（AKI）を予測する機械学習モデルに関する研究成果を発表しました。ポスター発表を通じ、多くの研究者と意見交換を行い、現在投稿中の国際共著論文の発展につながる有益な示唆を得ることができました。今回得た知見を、今後のTDM支援や臨床研究に活かしていきたいと考えています。



令和7年度名古屋市立大学 国際学会発表等支援事業 成果報告書

【国際学会発表】

フリガナ 申請者氏名	ハセガワタツヤ 長谷川達也
所 属	医学研究科 博士課程 2年 (生体防御・総合医学専攻) ※ () 内には、専攻・分野・領域・系列等を記入

国際学会の名称	Asia Pacific Signal and Information Processing Association Annual Summit and Conference
国際学会の主催者	Asia-Pacific Signal and Information Processing Association
開催地	〈国 名〉シンガポール 〈都市名〉シンガポール
参加期間	2025 年 10 月 22 日 ～ 2025 年 10 月 24 日
研究発表演題	Machine learning to predict circuit replacement in pediatric patients with extracorporeal membrane oxygenation 〈和訳〉機械学習を利用した小児 ECMO 回路交換の予測モデルの開発
発表形式	①. 口頭発表 ②. ポスターセッション 3. その他 (使用言語: 英語)

HP 掲載用報告

今回シンガポールで開催された Asia Pacific Signal and Information Processing Association Annual Summit and Conference に参加してきました。発表のテーマは COVID-19 でも使用された ECMO の回路交換を予測するモデルの開発でした。参加した学会は工学系の学会で信号処理を元にした AI の研究者が多く集まりました。自身のテーマは ECMO の合併症対策である回路交換を対象とし、ECMO 管理の安全性向上を目的としています。臨床での重要なテーマであることはもちろんですが、機械学習を利用することで、医学の安全性を向上させることができる可能性を見出す点でも重要なテーマと考えています。そのためには医学の知識だけでなく、機械学習の知識も必要であり、分野の違う学会へ参加し、意見交換を行うことができたことは貴重な機会になりました。今回の経験を活かし、今後は臨床現場で活用できる研究にしていくことを目指したいと思います。



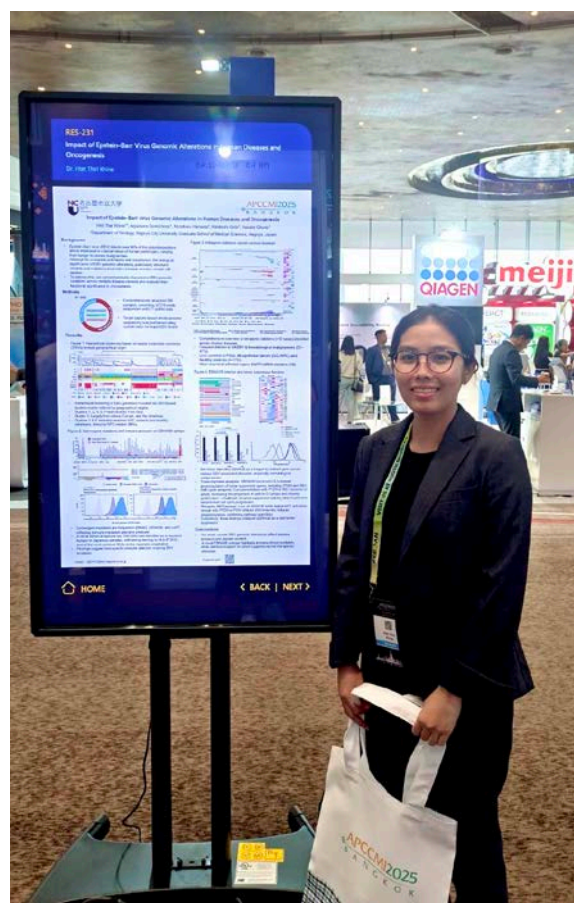
令和7年度名古屋市立大学 国際学会発表等支援事業 成果報告書
【国際学会発表】

申請者氏名	フ リ ガ ナ Htet Thiri Khine テ ッ ト テ ィ リ カ イ ン
所 属	医学研究科 博士課程 4年 (ウイルス学分野) ※ () 内には、専攻・分野・領域・系列等を記入

国際学会の名称	The 20 th Aasia Pacific Congress of Clinical Microbiology and Infection
国際学会の主催者	Infectious Disease Association of Thailand
開催地	〈国 名〉 タイ 〈都市名〉 バンコク
参加期間	2025年 11月 2日 ~ 2025年 11月 4日
研究発表演題	Impact of Epstein–Barr virus genomic alterations in human diseases and oncogenesis 〈和訳〉 エプスタイン–バーウイルスのゲノム変化が人疾患及び発ガンに及ぼす影響
発表形式	1. 口頭発表 ② ポスターセッション 3. その他 (使用言語: 英語)

HP掲載用報告

I participated in the 20th Asia Pacific Congress of Clinical Microbiology and Infection (APCCMI 2025), held in Bangkok, Thailand, from November 2 to 4, 2025. I presented my research titled **“Impact of Epstein–Barr Virus Genomic Alterations in Human Diseases and Oncogenesis.”** During the poster session, I had the opportunity to discuss my data with international researchers (Photo 1). I received valuable comments, particularly on immune-driven viral evolution and the functional role of EBNA3B. I also shared my work directly at my poster (Photo 2), where many participants showed interest in our genomic analysis of 990 EBV strains. This experience strengthened my scientific communication skills and expanded my international research network. I would like to express my sincere gratitude for the support that enabled my participation



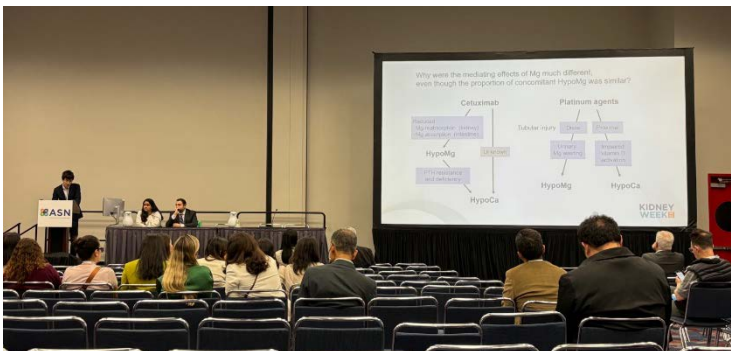
令和7年度名古屋市立大学 国際学会発表等支援事業 成果報告書
【国際学会発表】

申請者氏名	鈴木 皓大
所属	医学研究科 博士課程 3年（腎臓内科学） ※（ ）内には、専攻・分野・領域・系列等を記入

国際学会の名称	Kidney Week 2025 (アメリカ腎臓学会学術総会)
国際学会の主催者	アメリカ腎臓学会
開催地	〈国名〉アメリカ合衆国 〈都市名〉ヒューストン
参加期間	2025年 11月 4日 ~ 2025年 11月 9日
研究発表演題	Drug-Related Hypocalcemia in Patients with Malignancy: The Mediating Role of Serum Magnesium Levels 〈和訳〉悪性腫瘍患者における薬剤関連低カルシウム血症：媒介因子としてのマグネシウムの役割
発表形式	1. 口頭発表

HP 掲載用報告

アメリカ腎臓学会 (American Society of Nephrology) の年次学術集会「Kidney Week 2025」が、11月4日から9日にかけてテキサス州ヒューストンで開催されました。Kidney Weekは、ヨーロッパ腎臓学会 (ERA) や国際腎臓学会 (ISN) の学術集会と並ぶ、腎臓内科学分野で世界最大規模の学会です。今年も世界中から多くの研究者が参加し、私自身もアメリカだけでなくスペインやブラジルの研究者と、私の専門分野であるオンコネフロロジー (Onconephrology) について有意義な議論を行うことができました。



今年度の研究課題である「Drug-Related Hypocalcemia in Patients with Malignancy: The Mediating Role of Serum Magnesium Levels」は、Oral Presentation に選出され、発表を行いました。研究者として国際的に活動していくためには、英語で自らの研究を的確に伝える力が求められることを痛感しており、今回の発表はその意味でも非常に貴重な経験となりました。

昨年度は初めての参加であり、会場の雰囲気慣れることに精一杯でしたが、今年は英語力の向上もあり、より純粋に最先端の学術的知見を吸収することができました。今後も研鑽を重ね、名古屋市立大学から質の高い研究成果を世界へ発信できるよう努力を続けてまいります。

令和7年度名古屋市立大学 国際学会発表等支援事業 成果報告書
【国際学会発表】

フリガナ 申請者氏名	カエシ リョウヘイ 上西 涼平
所 属	医学研究科 博士課程3年 (生体防御・総合医学専攻) ※ () 内には、専攻・分野・領域・系列等を記入

国際学会の名称	Neuroscience 2025
国際学会の主催者	Society for Neuroscience
開催地	〈国名〉 America 〈都市名〉 San Diego
参加期間	2025年11月15日 ～ 2025年11月19日
研究発表演題	CXCL10 worsens the progression of tau pathology in a sex-dependent manner in a mouse model of tauopathy 〈和訳〉 CXCL10 は性依存的にタウオパチーモデルマウスにおけるタウ病態の進行を増悪させる
発表形式	1. 口頭発表 2. ポスターセッション 3. その他 (使用言語:)

HP 掲載用報告

今回参加した Neuroscience 2025 は、神経科学に特化した世界最大規模の国際学会です。今年参加者が2万人を超え、神経発達から認知症などの病態機構の解明に至るまで、幅広いテーマの最新の研究成果が発表されており、毎日興味深い発表を拝聴することができました。また、多くの英語に触れる中で、「思ったより伝わる」と感じる場面もあれば、「もっと英語を勉強しなければならない」と痛感する場面もあり、多くの学びを得ることができました。

今回の経験を糧に、今後も研究と努力を積み重ね、再び国際学会の舞台で研究成果を発表できればと思います。



令和7年度名古屋市立大学 国際学会発表等支援事業 成果報告書
【国際学会発表】

申請者氏名	富永 葉
所属	医学研究科 修士課程 2年 (脳神経生理学) ※ () 内には、専攻・分野・領域・系列等を記入

国際学会の名称	Neuroscience 2025
国際学会の主催者	Society for neuroscience
開催地	〈国名〉 アメリカ合衆国 〈都市名〉 サンディエゴ
参加期間	2025年 11月 15日 ~ 2025年 11月 19日
研究発表演題	Disruption of cerebellar circuit development occurs due to impaired microglia-mediated synaptic pruning in diffuse white matter injury 〈和訳〉 新生仔低酸素虚血性白質傷害におけるミクログリアを介したシナプス刈り込みの障害により小脳回路の発達に障害が生じる
発表形式	1. 口頭発表 ② ポスターセッション 3. その他 (使用言語: 英語)

HP 掲載用報告

Neuroscience 2025 (アメリカ・サンディエゴ) において、「Disruption of cerebellar circuit development occurs due to impaired microglia-mediated synaptic pruning in diffuse White Matter Injury」をテーマにポスター発表を行いました。世界最大規模の神経科学国際学会であり、約2万人が参加する中、多くの研究者と活発な意見交換を行う貴重な機会となりました。発表には多数の参加者が訪れ、今後の研究発展および論文化に向けた有益な助言を得ることができました。



令和7年度名古屋市立大学 国際学会発表等支援事業 成果報告書
【国際学会発表】

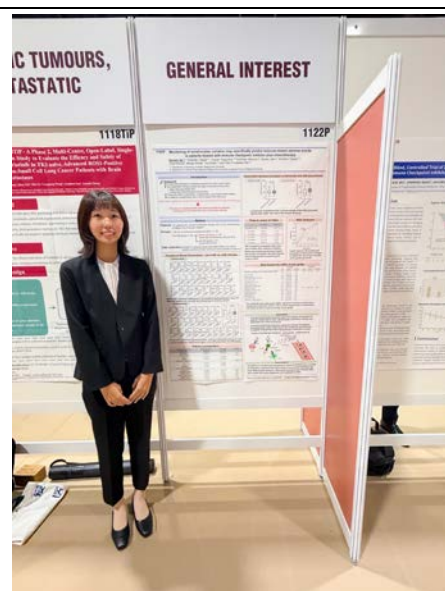
申請者氏名	伊藤 菜浪		
所 属	医学研究科	博士課程	2年（ 臨床薬剤学 ） ※（ ）内には、専攻・分野・領域・系列等を記入

国際学会の名称	ESMO Asia 2025
国際学会の主催者	欧州腫瘍内科学会
開催地	〈国 名〉シンガポール 〈都市名〉サンテック
参加期間	2025年12月5日 ～ 2025年12月7日
研究発表演題	Monitoring of lymphocytes variation may specifically predict immune-related adverse events in patients treated with immune checkpoint inhibitor plus chemotherapy 〈和訳〉リンパ球の変動は、免疫チェックポイント阻害剤と化学療法を併用した治療を受けた患者における免疫関連有害事象の予測因子になる可能性がある。
発表形式	ポスターセッション

HP 掲載用報告

ESMO Asia 2025にて「免疫チェックポイント阻害剤と化学療法の併用療法におけるリンパ球割合と免疫関連有害事象の関連」をテーマに研究発表を行いました。本研究では、治療開始後のリンパ球割合が免疫関連有害事象（irAE）の発生予測に有用となる可能性を示しました。

会場では海外の研究者からも多くの質問や意見をいただき、今後の研究の方向性を考える上で大変有意義な機会となりました。得られたフィードバックを基に、さらなるデータ集積および国際共同研究の可能性について検討を進めてまいります。



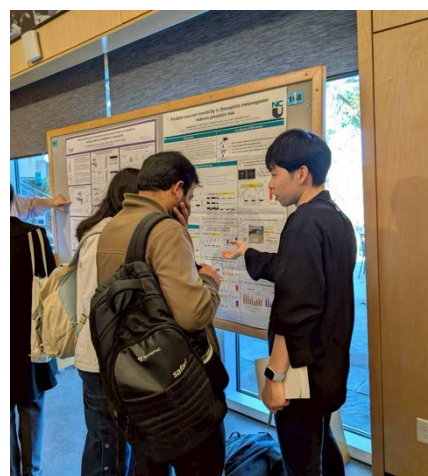
令和7年度名古屋市立大学 国際学会発表等支援事業 成果報告書
【国際学会発表】

申請者氏名	加藤 遥輝
所属	薬学研究科 博士課程 3年 (医療薬学機能専攻 神経薬理学分野) ※ () 内には、専攻・分野・領域・系列等を記入

国際学会の名称	Neurobiology of Drosophila
国際学会の主催者	Adrian Moore, Pelin Volkan
開催地	〈国名〉アメリカ 〈都市名〉ニューヨーク州ロングアイランド
参加期間	2025年 10月 7日 ~ 2025年 10月 11日
研究発表演題	Predator-induced immobility in <i>Drosophila melanogaster</i> reduces predation risk 〈和訳〉捕食者の存在により誘発されるショウジョウバエの無動状態は、捕食回避に寄与する
発表形式	1. 口頭発表 ② ポスターセッション 3. その他(使用言語:)

HP 掲載用報告

私はアメリカのニューヨークで開催された Cold Spring Harbor Laboratory Neurobiology of Drosophila 2025 に参加し、ポスター発表を行いました。この学会はショウジョウバエ神経科学の国際シンポジウムで、5日間に渡り、朝から夜の遅くまでセッションが生まれ、白熱した議論が行われました。自身のテーマに関わる発表も多く、たくさん勉強をさせていただきました。また、研究者との交流も深めながら、学会を楽しむことができました。この経験からもっといい研究がしたいとモチベーションが高まりました。このような機会をくださった当研究室の糸先生、ならびに名古屋市立大学国際学会発表支援事業に感謝申し上げます。



令和7年度名古屋市立大学 国際学会発表等支援事業 成果報告書
【国際学会発表】

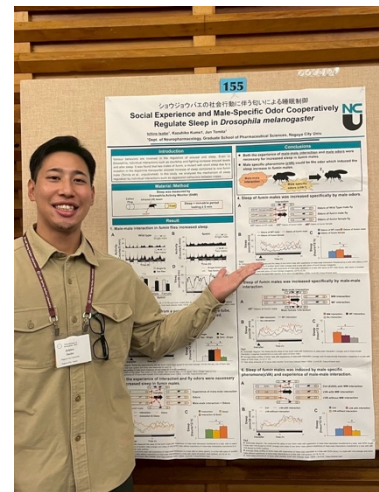
フリガナ 申請者氏名	イソベ イチロウ 磯部 一朗
所属	薬学研究科 博士後期課程 2年（ 創薬生命科学専攻 ） ※（ ）内には、専攻・分野・領域・系列等を記入

国際学会の名称	Neurobiology of Drosophila
国際学会の主催者	Adrian Moore, Pelin Volkan
開催地	〈国名〉 アメリカ 〈都市名〉 ニューヨーク
参加期間	2025年 10月 7日 ～ 2025年 10月 11日
研究発表演題	Social Experience and Male-Specific Odor Cooperatively Regulate Sleep in <i>Drosophila melanogaster</i> 〈和訳〉 ショウジョウバエの社会経験とオス特有な匂いは協調的に睡眠を制御する
発表形式	1. 口頭発表 ② ポスターセッション 3. その他（使用言語： ）

HP 掲載用報告

私は、アメリカ・ニューヨークで開催された Cold Spring Harbor Laboratory “Neurobiology of Drosophila 2025” に参加し、ポスター発表を行いました。本学会は、ショウジョウバエを用いた神経生物学に関する国際シンポジウムであり、世界中から多くの著名な研究者が集う場です。会期中は多くの研究者の方々と活発なディスカッションを行うことができ、最新の研究動向にも触れることができました。これらの経験は大変刺激的であり、自身の研究に対するモチベーションの向上につながりました。今後は、今回得られた知見を研究室全体の活動にも還元していきたいと考えています。

最後に、このような貴重な機会を与えてくださった当研究室の糸先生ならびに、名古屋市立大学国際学会発表支援事業に深く感謝申し上げます。



令和7年度名古屋市立大学 国際学会発表等支援事業 成果報告書
【国際学会発表】

申請者氏名	アマツジ ナナミ 天藤 七海
所属	薬学研究科 博士前期課程 2年 (神経薬理学分野) ※ () 内には、専攻・分野・領域・系列等を記入

国際学会の名称	Cold Spring Harbor meeting: Neurobiology of <i>Drosophila</i> 2025
国際学会の主催者	Adrian Moore, Pelin Volkan
開催地	〈国名〉 アメリカ 〈都市名〉 ニューヨーク
参加期間	2025年10月7日～2025年10月11日
研究発表演題	A subclass of evening cells regulates <i>Drosophila</i> sleep in the daytime 〈和訳〉 Evening cell のサブクラスがショウジョウバエの昼の睡眠を制御する
発表形式	1. 口頭発表 ②. ポスターセッション 3. その他 (使用言語:)

HP 掲載用報告

ニューヨークで開催された Cold Spring Harbor meeting: Neurobiology of *Drosophila* 2025 に参加し、ポスター発表を行いました。ショウジョウバエの神経科学に関する幅広いトピックについて学ぶことができました。海外の研究者の方々と議論し、最前線の研究に触れることで、今後の研究を展開するモチベーションを得られました。このような貴重な機会を与えてくださった先生方、ならびに名古屋市立大学国際学会発表支援事業に深く感謝申し上げます。



令和7年度名古屋市立大学 国際学会発表等支援事業 成果報告書
【国際学会発表】

申請者氏名	スズモト ユウキ 杉本 優希
所属	薬学研究科 博士前期課程 1年 (創薬生命科学専攻) ※ () 内には、専攻・分野・領域・系列等を記入

国際学会の名称	Neuroscience2025
国際学会の主催者	Society for Neuroscience
開催地	〈国名〉 アメリカ合衆国 〈都市名〉 San Diego
参加期間	2025年 11月 16日 ~ 2025年 11月 19日
研究発表演題	Investigation of the effect of illuminance on the resynchronization of sleep-wake rhythm. 〈和訳〉睡眠覚醒リズムの再同調に対する照度の影響の検討
発表形式	1. 口頭発表 2. ポスターセッション 3. その他 (使用言語:)

HP 掲載用報告

Neuroscience2025 は神経科学をテーマにした世界最大規模の学会です。研究分野も多岐に渡り、体感では日本の神経科学の学会の10倍ほどの規模でした。ポスター発表では多くの研究者の方が聞きに来てくださり、様々な意見をいただきました。その中には、初めていただく意見もあり、とても参考になりました。得られた意見から新たな考えを生み出し、より一層研究を発展させていきたいと思えます。

今回が、私にとって初の国際学会であり、一人での参加だったので、発表に多少の不安はありましたが、多くの方とコミュニケーションを取ることができ、刺激的な日々を送ることができました。とても有意義で実りのある4日間でした。



令和7年度名古屋市立大学 国際学会発表等支援事業 成果報告書
【国際学会発表】

フリガナ 申請者氏名	ヨシミリホ 吉見里帆
所 属	薬学研究科 博士前期課程 1年 (創薬生命科学専攻) ※ () 内には、専攻・分野・領域・系列等を記入

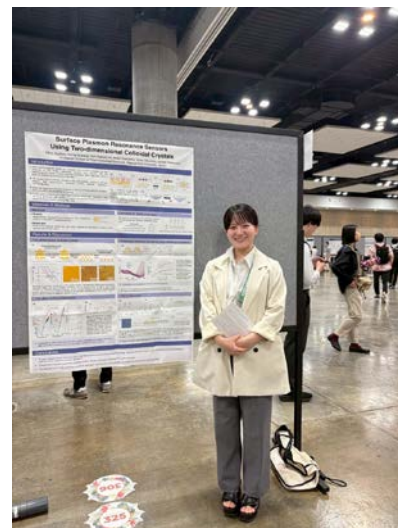
国際学会の名称	環太平洋国際化学会議 2025 (The International Chemical Congress of Pacific Basin Societies 2025)
国際学会の主催者	Pacificchem 2025 Organizing Committee
開催地	〈国 名〉アメリカ合衆国 〈都市名〉ホノルル
参加期間	2025年 12月 15日 ~ 2025年 12月 20日
研究発表演題	Surface Plasmon Resonance Sensors Using Two-dimensional Colloidal Crystals 〈和訳〉2次元金コロイド結晶を用いた表面プラズモン共鳴センサー
発表形式	1. 口頭発表 ② ポスターセッション 3. その他 (使用言語: 英語)

HP 掲載用報告

アメリカ合衆国ハワイ州ホノルルで開催された、International Chemical congress of Pacific Basin Societies 2025 (環太平洋国際化学会議 2025)に参加しました。環太平洋の7か国から、著名な教授から学生までの幅広い層の研究者が集まり、活発な議論が行われていました。

私は、「Surface Plasmon Resonance Sensors Using Two-dimensional Colloidal Crystals (2次元金コロイド結晶を用いた表面プラズモン共鳴センサー)」という表題で発表を行いました。他分野の教授や研究分野の近い学生と議論・交流を行い、新たな視点や課題を発見することができました。また、研究内容をわかりやすく英語で伝えることの難しさを体感し、英語能力向上の必要性を痛感しました。

さまざまな背景を持った方々との交流を通して、研究の面白さや自身の課題を再確認し、学びの多い経験となりました。今回得た知見や反省を活かし、さらに研究活動や自己研鑽に励みたいです。



令和7年度名古屋市立大学 国際学会発表等支援事業 成果報告書
【国際学会発表】

申請者氏名	角田 渉
所属	薬学研究科 博士前期課程 1年 (創薬生命科学専攻) ※ () 内には、専攻・分野・領域・系列等を記入

国際学会の名称	環太平洋化学学会 (The International Chemical Congress of Pacific Basin Societies 2025)
国際学会の主催者	Pacificchem 2025 Organizing Committee
開催地	〈国名〉アメリカ合衆国 ハワイ州 〈都市名〉ホノルル
開催期間	2025年 12月 15日 ~ 2025年 12月 20日
参加期間	2025年 12月 15日 ~ 2025年 12月 20日
発表予定演題	Two-Dimensional Colloidal Crystals of Colloidal Particles on Glass Substrates

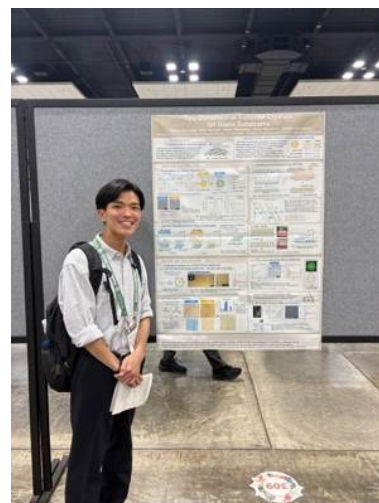
HP 掲載用報告

アメリカ合衆国ハワイ州ホノルルで開催された、2025 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies (2025 環太平洋国際化学会議)に参加した。本学会は5年に一度ホノルルで開催され、今回はコロナの影響で、2015年以来10年ぶりの対面での開催であった。私は、2025年12月19日(現地時間)に「Two-Dimensional Colloidal Crystals of Colloidal Particles on Glass Substrates (ガラス基板上での2次元コロイド結晶の構築)」という題目でポスター発表を行った。

会場では、環太平洋地域の各国からの参加者が、それぞれなまりのある英語で発表を行っており、これが国際学会なんだと高揚感を感じた。

自身もアジア圏の参加者と英語で質疑応答を交わすことができ、世界に向けて日々積み重ねている研究の成果を発信することができた。

一方で、英語で専門的な内容をスムーズに説明する力や聞き取る力などまだまだ不足している力が見つかったので、今後、日々の研究と語学学習などを積み重ね、再び国際学会の舞台に立てるように努力を重ねていきたい。



令和7年度名古屋市立大学 国際学会発表等支援事業 成果報告書
【国際学会発表】

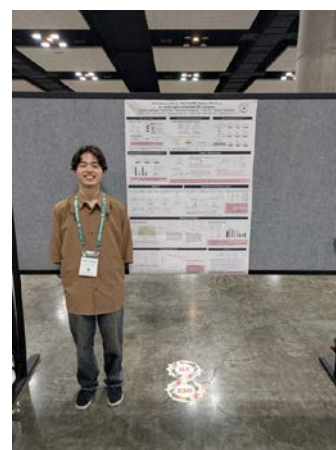
申請者氏名	吉川 旺佑
所属	薬学研究科 博士前期課程 2年（創薬生命科学専攻 薬化学分野） ※（ ）内には、専攻・分野・領域・系列等を記入
国際学会の名称	Pacificchem 2025
国際学会の主催者	The Chemical Institute of Canada
開催地	〈国名〉アメリカ合衆国 〈都市名〉ホノルル
参加期間	2025年 12月 16日 ～ 2025年 12月 18日
研究発表演題	Substituent effects affecting NO release efficiency in visible light controllable NO releasers 〈和訳〉光応答性 NO ドナーにおける NO 放出効率に影響を与える置換基効果
発表形式	1. 口頭発表 2. ポスターセッション 3. その他（使用言語： ）

□ 学会のテーマ・様子

Pacificchem 2025 は「地球規模の課題に取り組むコミュニティの構築」をテーマのもと、カナダ、日本、アメリカ、ニュージーランド、オーストラリア、韓国、中国の 7 化学会の共同主催で開催されました。化学に関する幅広い分野の研究者が一堂に会し、口頭発表やポスター発表を通じて、活発な議論が行われていました。

□ 研究発表内容

私は「Substituent effects affecting NO release efficiency in visible light controllable NO releasers」というタイトルで研究発表を行いました。本研究では当研究室で開発された、光誘起電子移動 (PeT) 反応をトリガーとする黄緑色光応答性 NO ドナーについて、NO 放出部位の置換基の立体障害および NO 放出部位以外の芳香環の存在が NO 放出効率に与える影響を検証しました。その結果、置換基の立体障害の増大および芳香環の存在により、NO 放出量の減少と NO 放出効率の低下が確認されました。以上の結果は PeT 駆動型 NO ドナーの分子設計において重要な知見を与えるかと期待されます。



□ 成果

ポスター発表と質疑応答、他の研究者の発表を通じて、光反応に関する知識を深めることができました。反応機構の考察や、置換基効果の正当性についてのディスカッションにより、新たな知見を得ることができました。

□ 感想

初めての海外での学会参加ということもあり、慣れないことも多く、非常に緊張もしましたが、楽しく有意義な学会参加であったと感じました。世界中の研究者に自分の研究を知ってもらい、意見をいただく貴重な機会となりました。一方英語での発表は、表現や聞き取りがうまくいかない場面も多く、改善の余地があると感じました。今回得られた経験を今後の研究活動につなげていきたいと考えています。

令和7年度名古屋市立大学 国際学会発表等支援事業 成果報告書
【国際学会発表】

申請者氏名	森 望
所属	芸術工学研究科 博士前期課程 1 年 (情報環境デザイン領域) ※ () 内には、専攻・分野・領域・系列等を記入

国際学会の名称	International Colour Association
国際学会の主催者	The Color Association of Taiwan
開催地	〈国名〉 台湾 〈都市名〉 台北
参加期間	2025年 10月 20日 ~ 2025年 10月 23日
研究発表演題	Reevaluating Brightness Perception: An Empirical Examination of Melanopsin's Influence 〈和訳〉 明るさ知覚の再評価:メラノプシンの影響に関する実証的検討
発表形式	1. 口頭発表 ② ポスターセッション 3. その他 (使用言語: 英語)

HP 掲載用報告

AIC2025 16th Congress of the International Colour Association に参加し、ポスター発表を行いました。発表タイトルは、「明るさ知覚の再評価:メラノプシンの影響に関する実証的検討」です。発表を通じて世界中の研究者とディスカッションを行い、実験の頑強性を高めるためのアドバイスなど、今後の研究を発展させる貴重なフィードバックを多数得ることができました。今後必要な追加実験についても意見を交換し、次期実験計画の方針を確認することができました。

英語でのポスター発表は初めての経験であり、海外の研究者とのコミュニケーションでは、専門的な質問の意図を理解しきれず、即座に適切な回答ができない場面もありました。しかし、相手の意図を再確認し、何度もやり取りを繰り返すことで、最終的には質問に対して伝えるべきことを伝えることができました。今後の課題として、相手の意図をより適切に理解し、自分の意見や研究内容を英語で的確に伝えられるよう、英語コミュニケーション能力の向上を図りたいと考えています。



令和7年度名古屋市立大学 国際学会発表等支援事業 成果報告書
【国際学会発表】

申請者氏名	赤堀 祥
所属	芸術工学研究科 博士前期課程 2年（産業イノベーションデザイン領域） ※（ ）内には、専攻・分野・領域・系列等を記入

国際学会の名称	Optics & Photonics Taiwan International Conference 2025
国際学会の主催者	Committee of OPTIC 2025
開催地	〈国名〉Taiwan(R.O.C) 〈都市名〉Taipei
参加期間	2025年 12月 4日 ～ 2025年 12月 7日
研究発表演題	A Basic Study on Non-Contact Estimation of Oral Breathing Flow-Volume Using Far-Infrared Imaging 〈和訳〉遠赤外線画像を用いた口呼吸流量の非接触推定手法の基礎検討
発表形式	1. 口頭発表 2. ポスターセッション 3. その他(使用言語:)

HP 掲載用報告

□ 学会のテーマ・様子

Optics & Photonics Taiwan International Conference は、台湾における光工学・光技術分野最大規模の国際会議であり、最新の研究成果や技術動向を共有することを目的として毎年開催されている。今年も、11のテーマ別セッションが設けられ、多数の研究者および学生によるポスター発表や口頭発表が行われたほか、各分野を代表する研究者による招待講演も実施された。

□ 研究発表内容

口腔付近の表面温度変化を用いた口呼吸流量の非接触推定手法に関する検討内容について、ポスター発表を行った。遠赤外線カメラと既存の呼吸流量計測機器を併用した表面温度と流量の同時計測は技術的制約が大きく、両者の関係性を直接的に調査することは困難であった。先行研究により、鼻呼吸時においては、呼気・吸気の気温と呼吸部位の温度変化ならびに呼吸流量と気温との間に関連性があることが確認されている。これを踏まえ、本研究では口呼吸においても同様の関係性が成立するかを調査し、遠赤外線画像を用いた口呼吸流量の非接触推定手法の実現可能性について考察を行った。

□ 成果

本発表を通じて、複数の研究者と意見交換を行うことができた。その結果、現状の研究課題に対する新たな解決の糸口を見いだすとともに、研究成果の応用先に関する新たな視点を獲得することができた。これらの経験は、今後の研究を進める上で有益な知見となった。

□ 感想

本学会は初めての国際学会での発表であり、当初は緊張もあったが、無事に発表を終えることができ、

貴重な経験となった。一方で、意見交換は英語で行われたため、自身の説明意図が十分に伝わらなかった場面や、専門用語が理解できず聞き返す場面もあり、もどかしさを感じた。今回の経験を通して、研究内容を正確に伝えるための英語コミュニケーション能力の重要性を改めて認識した。



令和7年度名古屋市立大学 国際学会発表等支援事業 成果報告書
【国際学会発表】

申請者氏名	加賀美果歩
所属	芸術工学研究科 博士前期課程 2年（芸術工学専攻情報環境デザイン領域） ※（ ）内には、専攻・分野・領域・系列等を記入

国際学会の名称	SIGGRAPH Asia 2025
国際学会の主催者	ACM SIGGRAPH
開催地	〈国名〉香港 〈都市名〉香港
参加期間	2025年 12月 15日 ～ 2025年 12月 18日
研究発表演題	1. Percussive Hemispheres: Turning the Head into a Resonating Instrument via Audio-Tactile and Visual Synchrony 2. Bulb-in-Hand Initiation: An Illusory Altered In-Head Sensation via Colored Hemispheres, Audio Panning, and Head Tapping
発表形式	1. 口頭発表 2. ポスターセッション ③. その他（使用言語：英語）

HP 掲載用報告

研究発表報告

□ 学会のテーマ・様子

コンピュータグラフィックスやインタラクティブ技術、AI、XR、アニメーション、ゲームなどをテーマとしたアジア最大規模の国際学会であり、学会発表と展示会が同時に開催される。研究者・開発者・クリエイターが集まり、活発な意見交換や交流が行われ、大きな盛り上がりを見せていた。

□ 研究発表内容

ハーフミラーと光る半球のオブジェクトを用いて、頭の中を体験空間とする2つの作品のデモ展示を行った。ハーフミラー越しに、自分の頭と、脳を模した左右の半球とが重なって見えることで、頭の中が透けているような視覚像を提示する。

「Percussive Hemispheres」では、体験者の頭部が叩かれた瞬間に、その位置に対応した半球の色が変化し、同時にスチールドラムの音が鳴る。これにより、自分の頭内で音が響くような感覚や、自分の頭が楽器そのものになったかのような感覚を体験できる。「Bulb-in-Hand Initiation」は、実験者が手に持つ電球の光がコピーされるように、半球の色が変化する。体験者の頭部に直接電球を当てて押し込む瞬間に、半球の色とネックスピーカーからの音に変化し、光と音が自分の頭の中に入り込んでく

るような感覚や、頭内の状態が変化するような感覚を体験できる。聴覚・触覚・視覚の相互作用により、音と光の変化が自分の身に起きているようなリアリティのある体験を提供する。



□ 成果

3日間のデモ展示を通し、多くの来場者に作品を体験してもらい、直接リアクションを得ることができ、非常に貴重な機会となった。今回の展示作品は、申請者の修士研究のテーマである、聴覚刺激と頭部への触覚刺激の同期提示において音の知覚位置が頭部方向へ引き寄せられる現象を体験として展開したものである。事前の検討では、音と触覚の同期・非同期条件を比較し、同期条件において音の引き寄せ効果が高まるという結果を得ていたが、デモ展示でも、多くの体験者から「音が頭の中で鳴っているような感じがする」といった感想が得られた。また、「Bulb-in-Hand Initiation」は、Best Demo in Show Award (XR 部門最高賞)を受賞し、音の知覚位置が変化するこの現象を、体験を通して広く発信することができた。

□ 国際共著論文の見通し

さまざまな国や分野の研究者と直接意見交換を行い、研究の背景や目的について説明しながら議論ができた。これらの議論を通じて、本研究の着眼点や課題がより明確になり、今後の研究の進め方について考えを深める機会となった。国際共著論文としての具体的な計画は現段階ではないものの、多角的な視点からの意見は、今後の研究内容を検討していく上で有意義なものであった。

□ 感想

たくさんの人に実際に作品を体験してもらった中で、現象としてのおもしろさが言語の壁を超えて伝わっていく感覚があった。率直な感想やリアクションを通して、これまで自分のやってきたことが相手に伝わっている実感を持つことができ、とても嬉しかった。デモの説明やプレゼンテーションを英語で行うことに苦労する場面もあったが、参加者とのコミュニケーションを通じて英語を使うことへの自信を持つことができた。今後も視野を広く持ち、研究について積極的に発信していきたい。



令和7年度名古屋市立大学 国際学会発表等支援事業 成果報告書
【国際学会発表】

申請者氏名	川出 彩
所属	データサイエンス研究科 修士 課程 1 年 () ※ () 内には、専攻・分野・領域・系列等を記入

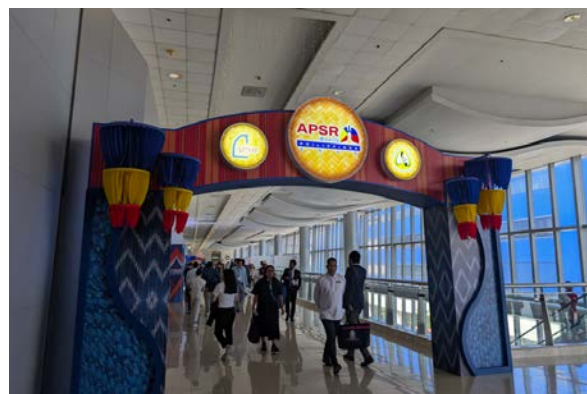
国際学会の名称	The 29 th Congress of Asian Pacific Society of Respirology (アジア太平洋呼吸器学会)
国際学会の主催者	Asian Pacific Society of Respirology (アジア太平洋呼吸器学会) 現地運営: Philippine College of Chest Physicians (フィリピン胸部学会)
開催地	〈国名〉 フィリピン 〈都市名〉 マニラ
参加期間	2025 年 11 月 12 日 ~ 2025 年 11 月 12 日
研究発表演題	Impact of Respiratory Diseases and Medical Infrastructure on Global COVID-19 Cases and Deaths 〈和訳〉呼吸器疾患と医療インフラが世界の COVID-19 患者数/死亡数に及ぼす影響
発表形式	1. 口頭発表 2. <input checked="" type="checkbox"/> ポスターセッション 3. その他 (使用言語:)

HP 掲載用報告

第 29 回アジア太平洋呼吸器学会 (APSR 2025、11 月 10~13 日 フィリピン・マニラ) では、COVID-19 後の呼吸器疾患管理、慢性疾患の地域差、医療体制の課題などが多く取り上げられ、講演・シンポジウム・ポスターセッションを通じて国際的な議論が活発に行われていた。

私は「Impact of Respiratory Diseases and Medical Infrastructure on Global COVID-19 Cases

and Deaths (呼吸器疾患と医療インフラが世界の COVID-19 患者数・死亡数に及ぼす影響)」という演題でポスター発表 (英語による口頭説明を含む) を行った。今回は、初めての国際学会での英語による発表であり、直前まで非常に緊張していたが、ポスターの構成に沿って、何とか最後まで発表をやり遂げることができた。この経験は、自身の英語力やプレゼンテーション技術の課題を浮き彫りにすると同時に、「次はもう一步踏み込んで説明したい」という前向きな動機づけにもつながった。今後は、修士課程での学びと並行して、国際学会での発表経験を積み重ねていきたい。



令和8年度名古屋市立大学 国際学会発表等支援事業 成果報告書
【国際学会発表】

申請者氏名	フ リ ガ ナ コバキシテイモシイテツロウ 小林 テイモシイ 哲郎
所 属	医学研究科 修士課程 2年（臨床薬学分野） ※（ ）内には、専攻・分野・領域・系列等を記入

国際学会の名称	27th World Meeting on Sexual Medicine 2026
国際学会の主催者	ESSM
開催地	〈国 名〉 ポルトガル 〈都市名〉 ポルト
参加期間	2026年2月25日～2026年2月28日
研究発表演題	Photoresponsive sGC Activator, GSK-Rosa, Improves Erectile Function in Rats Without Lowering Blood Pressure 〈和訳〉光応答性 sGC 活性化剤である GSK-Rosa は全身血圧を下げずにラット勃起反応を増強させた。
発表形式	1. 口頭発表 2. ポスターセッション ③ その他（使用言語：英語）

HP 掲載用報告

本学会は、ISSM と ESSM が共同で主催する性医学分野における世界最大級の国際学会であり、性医学に関する最新の研究成果を共有し今後の発展について議論することを目的としています。今年はポルトガルのポルトで開催され、世界各国から 1,200 名以上の研究者および医療関係者が参加しました。私は「Photoresponsive sGC Activator, GSK-Rosa, Improves Erectile Function in Rats Without Lowering Blood Pressure」というテーマでポスター発表を行いました。難治性勃起不全は第一選択薬である PDE5 阻害薬の効果が限定的であり、新たな治療法の開発が求められています。昨年は sGC 活性化剤 GSK2181236A

がラットの勃起機能を有意に増強することを報告しましたが、今年は光照射により同薬剤を放出する光応答性化合物 GSK-Rosa の勃起機能増強効果について報告しました。質疑応答では、本薬剤と既存薬との違いや有用性について議論を行い、多くの研究者と意見交換を行うことができました。また、他の演者の発表を通じて男性性機能のみならず、女性性機能や性自認などの心理的課題を含む幅広い研究動向を知ることができました。さらに、若手研究者の交流会や食事会を通して世界各国の研究者および医療関係者と新たなつながりを築き、研究発表だけでなく国際的な交流の重要性についても学ぶ貴重な機会となりました。



令和7年度名古屋市立大学 国際学会発表等支援事業 成果報告書
【国際学会発表】

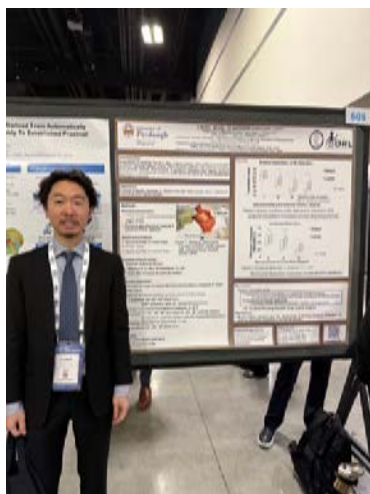
フリガナ 申請者氏名	イノウエジュンペイ 井上 淳平
所 属	医学研究科 博士課程 4年（ 整形外科学 ） ※（ ）内には、専攻・分野・領域・系列等を記入

国際学会の名称	Orthopaedic Research Society 2026 Annual Meeting
国際学会の主催者	Orthopaedic Research Society
開催地	〈国 名〉 アメリカ 〈都市名〉 シャーロット
参加期間	2026年 3月 27日 ～ 2026年 3月 31日
研究発表演題	A Novel Model of Anterior Shoulder Laxity 〈和訳〉 肩関節前方不安定性モデルの作成
発表形式	1. 口頭発表 2. ポスターセッション 3. その他（使用言語： ）

HP 掲載用報告

屍体肩を用いた前方不安定性モデルの作成に関するポスター発表を行い、外力負荷条件やロボットシステムの設定方法、さらに再現性の高いモデル作成のための具体的な手技について提示しました。発表を通じて、同分野の研究者やエンジニアと活発な議論を行うことができ、特にロボットのパラメータ設定や実験プロトコルに関する有益な情報交換が得られました。

また、学会期間中には腱板断裂に関する超音波評価の臨床研究や、組織学的・生体力学的観点からの基礎研究など、多岐にわたる発表を聴講しました。これらの研究から、画像評価と臨床転帰の関連性や、病態解明に向けた新たなアプローチについて理解を深めることができました。



令和7年度名古屋市立大学 国際学会発表等支援事業 成果報告書
【国際学会発表】

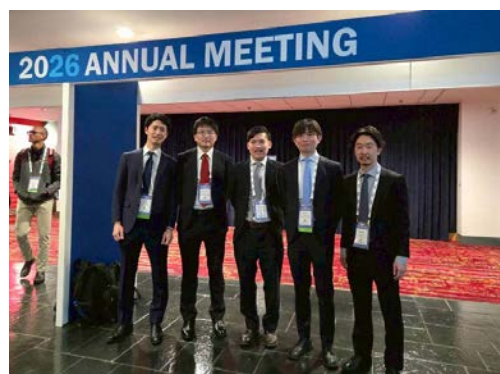
申請者氏名	太田 恭平
所属	医学研究科 博士課程 3年（ 整形外科 ） ※（ ）内には、専攻・分野・領域・系列等を記入

国際学会の名称	Orthopaedic Research Society 2026 Annual Meeting
国際学会の主催者	Orthopaedic Research Society
開催地	〈国名〉アメリカ合衆国 〈都市名〉シャーロット
参加期間	2026年 3月 28日 ～ 2026年 3月 30日
研究発表演題	Effects of Remnant Preservation in ACL Reconstruction on Postoperative Rotational Knee Instability and Clinical Outcomes 〈和訳〉前十字靭帯再建術におけるレムナント温存が術後膝関節回旋不安定性及び臨床成績に及ぼす影響
発表形式	1. 口頭発表 2. ポスターセッション 3. その他（使用言語： ）

HP 掲載用報告

Orthopaedic Research Society 2026 Annual Meeting は、整形外科領域の基礎研究から臨床応用まで幅広いテーマを扱う国際学会であり、膝靭帯再建、関節軟骨、再生医療、バイオメカニクスなど多岐にわたる分野の最新の研究成果が発表されていきました。私は “Effects of Remnant Preservation in ACL Reconstruction on Postoperative Rotational Knee Instability and Clinical Outcomes” の演題でポスター発表を行いました。本研究では、前十字靭帯

（ACL）再建術におけるレムナント温存の有無が、術後の膝関節回旋不安定性および臨床成績に及ぼす影響について検討しました。発表に際しては、ACL 再建術後の回旋不安定性評価方法や、レムナント温存の適応および臨床的意義について、海外の研究者・臨床医と意見交換を行うことができました。質疑応答では、評価指標の解釈や今後の研究デザインに関する有益な助言を得ることができ、自身の研究を国際的視点から再考する貴重な機会となりました。今回、Orthopaedic Research Society 2026 Annual Meeting に参加し、自身の研究成果を国際学会の場で発表できたことは、大変貴重な経験となりました。発表準備および現地での質疑応答を通じて、自らの研究内容を英語で的確に伝える重要性を改めて認識しました。また、世界各国の研究者による最新の発表に触れることで、今後の研究の方向性や課題について多くの示唆を得ることができました。本学会参加を通して得られた経験を、今後の臨床・研究活動に活かしていきたいです。



令和7年度名古屋市立大学 国際学会発表等支援事業 成果報告書

【国際学会発表】

申請者氏名	山際 李奈
所属	看護学研究科 博士前期課程 2年 (クリティカルケア看護学分野) ※ () 内には、専攻・分野・領域・系列等を記入
国際学会の名称	The 29th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS)
国際学会の主催者	The Alice Lee Centre for Nursing Studies, Yong Loo Lin School of Medicine, National University of Singapore (NUS Nursing)
開催地	〈国名〉シンガポール 〈都市名〉
参加期間	2026年 2月 26日 ~ 2026年 2月 28日
研究発表演題	Japanese Emergency Nurses' Preparedness for Chemical, Biological, Radiological, Nuclear, and Explosive (CBRNE) Incidents 〈和訳〉日本の救急看護師の化学、生物、原子力、核、爆発事例に対する備え実態調査
発表形式	① 口頭発表 2. ポスターセッション 3. その他 (使用言語:)

シンガポールで行われた 29th EAFONS のテーマは、"Innovate, Integrate, Inspire: Advancing Nursing Excellence in the Digital Era" であり、AIなどが急速に発展する中でどこまでをAIなど最新技術に任せつつ、その中でも看護師でしかできないことなどについても検討されていました。

私は「Japanese Emergency Nurses' Preparedness for Chemical, Biological, Radiological, Nuclear, and Explosive (CBRNE) Incidents」というタイトルで、日本の救急看護師がどの程度 CBRNE インシデントに対する備えを有しているかという内容の口頭発表を行いました。国際学会の口頭発表は初めての機会でしたが、発表後の Q&A セッションでは、他国の参加者と学部における災害教育について共有する機会にも恵まれ、とても有意義でした。英語での口頭発表は初めてでしたが、事前に中村教授から指導を受け、十分な準備を整えた上で臨むことができました。想像以上に Q&A が盛り上がり非常に良い経験となりました。技術の発展とともに、様々な翻訳ツールや AI が使われるようになり、コミュニケーションもオンラインで活発に行われていますが、それでも実際に顔を合わせての交流は貴重であり、変え難いものなのではないかと感じました。学会発表までご指導いただいた中村教授に感謝しております。



EAFONS は東アジアの国で開催される大学院生や研究者に向けた学会です。年々演題登録者数が増え、今回はリジェクトしなければならない数がとても多くなったと聞きました。このような中で口頭発表ができたという経験は私にとってとても大きなものであると感じます。国際学会での発表は、国際学会発表等支援事業による経済支援があったからこそ叶いました。大変感謝しております。

令和7年度名古屋市立大学 国際学会発表等支援事業 成果報告書

【国際学会発表】

申請者氏名	奥村 幸太郎
所属	看護学研究科 博士前期課程 1年（クリティカルケア看護学分野） ※（ ）内には、専攻・分野・領域・系列等を記入

国際学会の名称	EAST ASIAN FORUM OF NURSING SCHOLARS 2026
国際学会の主催者	The Alice Lee Centre for Nursing Studies, Yong Loo Lin School of Medicine, National University of Singapore (NUS Nursing)
開催地	〈国名〉シンガポール共和国 〈都市名〉シンガポール市
参加期間	2026年 2月 27日 ～ 2026年 2月 28日
研究発表演題	Exploring Outcomes Associated with Nurses' Psychological Safety: A Scoping Review 〈和訳〉看護師の心理的安全性に関連する成果の探求：探索的レビュー
発表形式	1. 口頭発表 ②. ポスターセッション 3. その他（使用言語： ）

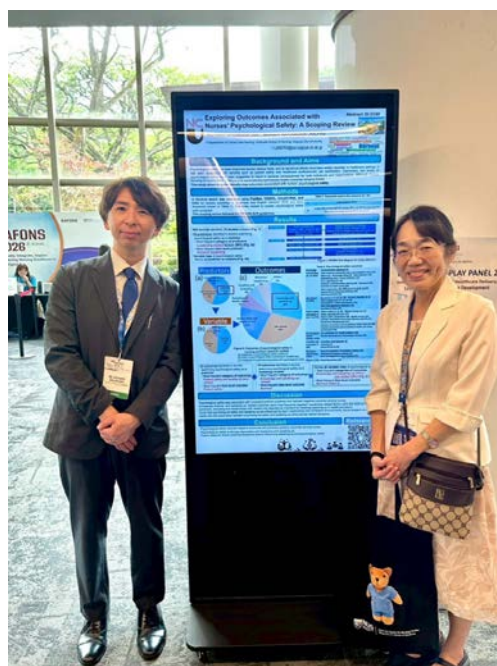
HP 掲載用報告

このたび、初めて国際学会に参加いたしました。EAFONS (East Asian Forum of Nursing Scholars) は1997年に設立され、香港、韓国、シンガポール、タイ、フィリピン、台湾、日本の7カ国のメンバーにより創設された学術団体です。本学会では、アジア地域を中心とした各国の看護師・研究者による口頭発表やポスター発表が行われ、活発な意見交換がなされてきました。

各国の看護の現状や研究動向に触れることで、医療制度や文化的背景の違いが看護実践や研究テーマに与える影響について理解を深めるとともに、多角的な視点を得る貴重な機会となりました。本学会での学びを通して、日本国内にとどまらず、国際的視野を持ちながら自身の研究テーマをさらに発展させていきたいと考えております。

本学会への参加にあたりましては、名古屋市立大学の「国際学会発表等支援事業」によるご支援を賜り、その一部をご補助いただきました。本経験は、国際的な視野を広げるとともに、自身の研究および専門性のさらなる発展を考えるうえで、大変有意義なものとなりました。

ご指導いただいた中村教授をはじめ、先生方や、名古屋市立大学国際学会発表等支援事業など、このような貴重な機会をくださった皆さまへ感謝申し上げます。



令和7年度名古屋市立大学 国際学会発表等支援事業 成果報告書
【国際学会発表】

申請者氏名	風戸 法子
所属	看護学研究科 博士前期課程1年（クリティカルケア看護学分野） ※（ ）内には、専攻・分野・領域・系列等を記入

国際学会の名称	EAST ASIAN FORUM OF NURSING SCHOLARS 2026
国際学会の主催者	The Alice Lee Centre for Nursing Studies, Yong Loo Lin School of Medicine, National University of Singapore (NUS Nursing)
開催地	〈国名〉シンガポール共和国 〈都市名〉シンガポール市
参加期間	2026年 2月 27日 ～ 2026年 2月 28日
研究発表演題	Nursing Practices for Patients with Do-Not- Attempt-Resuscitation (DNAR) Orders in Acute Care Settings in Japan : A Scoping Review 〈和訳〉日本における急性期の Do Not Attempt Resuscitation 後の患者に対する看護実践についてのスコーピングレビュー
発表形式	1. 口頭発表 2. ポスターセッション 3. その他（使用言語： ）

HP 掲載用報告

シンガポールで行われた第29回 EAST ASIAN FORUM OF NURSING SCHOLARS 2026 のテーマは「Innovate, Integrate, Inspire : Advancing Nursing Excellence in the Digital Era」であった。東アジアおよび世界各地から32ヶ国の参加登録がありました。口演やシンポジウムではテーマに沿ったAIを活用した看護の展望などが述べられていました。

私は、「Nursing Practices for Patients with Do Not Attempt Resuscitation (DNAR) Orders in Acute Care Settings in Japan : A Scoping Review」というタイトルで、DNAR の患者に対して看護師が行う看護実践について、どのような内容が報告されているかをスコーピングレビューし、ポスター発表を行いました。

初めての国際学会であり、私にとって非常に有意義な経験であり、準備段階であるスコーピングレビューの手法や英語ポスターの作成過程自体も大きな学びでした。英語を用いて研究の魅力を伝えるため、掲載する情報の選択をし、図表を用いて直感的に伝える視覚的な表現手法を学ぶことができました。現地では、世界中の大学院生の研究のポスターを閲覧したり、口演を聞いたりしたことで、他国の取り組みと自国の違いを知る機会などを得られたことで自身の視野を広げることができました。

ご指導いただいた中村教授をはじめ、先生方や、名古屋市立大学国際学会発表等支援事業など、このような貴重な機会をくださった皆さまへ感謝申し上げます。

